

羅馬法/渡邊安積(講義) ; 山口正毅(編輯)  
(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

このPDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級)(原裝本デジタル・データ)から、羅馬法の部分を抽出して編集したものである。

2015 年 7 月 中央大学大学史資料課

羅馬法

法學士 渡邊安積 講義  
校友 山口正毅 編輯

英吉利法律ヲ學フ學校ニテ羅馬法ノ講義ヲ爲スハ少シク區域ノ外ニ出テタル如キ思フ爲スモノアラシク現ニ此學校ヲ創立スル際ニモ本校ハ英吉利法律ヲ主トスルユヘ羅馬法ノ如キ古昔ノ既ニ死シタル法律ヲ教授スルニ及ハストノ論盛ナリシカハ創立ノ當分ハ科目ニ羅馬法ノ一科ヲ加ヘサリキ然レトモ法律全体ノ事柄ヲ研究シ又其全体ヲ區別スル方法其他法律ノ用語等ノ如キハ佛蘭西獨乙等歐州大陸ノ法制ノ基礎トスル所ノミナラズ法律變遷ノ次第杯ハ羅馬法ニ據リテ之ヲ講スルヲ最モ便捷トス此等種々ノ點ヨリ考ヘ英吉利法律ヲ學フ學校ニテモ羅馬法ヲ學フカ善カラントノ評議アリテ前學年ノ半途ヨリ羅馬

羅馬法

一

法ノ一科ヲ加ユルコト、ハナレリ左レトモ其時ハ己ニ學年ノ半ハニモ  
ナリタルコトナレハ唯科外トシ澁谷君之ヲ講義シ其大体ハ既ニ講義  
録ニ掲載シタリ而シテ澁谷君ノ講義セラレタルハサンター氏ノ「ヂヤ  
スチニア」ノ総論丈ナリサンター「ヂヤスチニア」トハ「ヂヤスチニア  
ン」法典ニサンター氏ノ註解ヲ下シタルモノナリ総論ノコトユヘ至リテ  
概略ニシテ不完全ノモノナレハ固ヨリ是ニテ羅馬法ヲ領解セラルヘ  
キニハアラサレトモ是モ半途ヨリ講義シタルモノナレハ是非モナキコ  
トナリ此學年ヨリハ余カ此學科ヲ受持ツコト、ナリタレトモ余カ曾テ  
大學ニ在ルトキハ大學ノ科目中ニ之ヲ加ヘナカリシユヘ親シク先生  
ニ就キ講究セサリケレハ此法ニハ至テ暗シト雖幸ニ一昨年ノ秋東京  
大學ニ別科法學生ナルモノヲ設ケラレ余ニモ羅馬法ノ講義ヲ囑托セ  
ラレタルカ是ソ羅馬法ヲ學フノ好機會ト思ヒ不肖ナカラ其囑托ニ應

シ始メテ少シク羅馬法ヲ研究スルコトヲ得タリキ其際困却セシハ英  
 語ニテ羅馬法ヲ書キタル書物稀ニシテ偶、在レハ簡單ナル初歩ニ止  
 マリ詳ニ之ヲ究メント欲セハ勢ヒ日耳曼ノ書物ヲ涉獵セサル可ラス  
 故ニ余ハ三四冊ノ初歩ノ書物ヲ緝キ不充分ナカラ羅馬法ノ大体ヲ講  
 セリ就中根據トシタル書ハハハンターノ「ローマン、ロー」ナリ金持ツ人ハ  
 購讀セサル可ラサル書ナリ該書ニハ古代ノ羅馬人ノ書キタル「パンデ  
 クト」ノ「イベル」杯云書物ノ條章ノ索引ヲ付ケアレハ諸君ニシテ羅匈語  
 ヲ讀得ルニ至レハ直ニ原書ニ就キ研究スルヲ得ルノ便アリ近來此ハ  
 シンター氏ノ羅馬法ヲ少縮シタルモノヲ出版セシ由ニテ西川鉄次郎君  
 カ明法志林ニ投セラレタル羅馬法ノ講義ハ即其書ニ據リタルモノ  
 ナリ其書物ハ本校ノ教科書ニモ適當スルナランカ余ハ未之ヲ獲サル  
 ハ残念ナリサテ余カ大學ニテ一學年間講シタルモノ漸ク集リテ一ノ

羅馬法

三

三十九

冊子ト成リタルカ一讀シ玉ハ、蓋羅馬法ノ要領ハ知ラサルヘシ固ヨ  
 リコレトテモ不完全ニテ財産相續、刑法、訴訟手續ノ事ヲ記載セズ是ハ  
 余カ疾ノ爲メ中途ヨリ講義ヲ辞シタルカユヘナリ其後草稿ハ打棄テ  
 、出版ヲ書店ヨリ請求セラレシモ閑ヲ得サルタメ其儘ニシテ置キシ  
 カ昨年秋療養ノ爲メ郷里ニ歸リ山ニ登リ河ニ漁スルノ傍ラ散逸シタ  
 ル草稿ヲ蒐集シ一冊トシテ東京ニ送付シタレハ書店之ヲ出版シタリ  
 固ヨリ見ルニ足ラサル書物ユヘ之ヲ以テ此教場ニテ講義スルハ余ノ  
 本意ニアラス原書ニモ善キ書物ナクハ「ハンター」ニテ講スレハ時間ヲ多ク  
 費サ、ルヲ得サルユヘ「サンダー」ノ「チヤスチニアン」ニテ講義センカト思  
 ヒタルカ此書モ「マダ羅馬法」ノ發達シタルモノヲ記シテ彼ノ羅馬法  
 ヲ講スルニ最モ利益トスル所ノ法律ノ沿革ヲ知ルニハ適當ナラス然  
 ルニ其沿革ヲ究ムルニハ「ポースト」ノ「ガイアス」リ過キタルモノナシト

大此書ハ先羅馬法ノ盛大ヲ極メタルトキ書キタルモノニシテギヤスチ  
 ニアンノ教科書モ之ニ據リタルモノナレハ「ガイアス」ヲ學ヘバ「ヂヤスチ  
 ニアン」ハ學ブニ及ハサルナリ斯ノ如ク沿革ヲ知ルニ便利ナルユヘ今  
 學年ハ此書ニ依リテ羅馬法ヲ講究セント欲ス其後主キマカス  
 然ルニ之ヲ講スル前ニ一言スヘキハ羅馬法ノ身體ニ關セスシテ其今  
 日第十九世紀マテ如何ナル盛衰消長アルヤヲ知ラサル可ラサルコト  
 是ナリ換言スレハ羅馬法ハ如何シテ出來如何シテ今日マテ傳リタ  
 ルカヲ知ラサル可ラス然ルニ此書ニハ斯クノ如キコトハ記載シアラ  
 レハ余ハ他書ニ據リ之ヲ取調ヘタリ即チマツケルデ「ノ」ロ「イ」マン「ロ  
 」今少シ簡單ナルハ「ロ」ルド「マ」ツケン「ギ」ト「ノ」二氏ノ書ニ依レリ余ハ先  
 ツ此事ヲ略述シ然ル後羅馬法ノ體ニ移ルヘシ  
 羅馬法ノ根源及其變遷ヲ講究スルニハ歴史家ギブボンズノ始メテ創定

第一期

羅馬ノ最

古憲法

Comitia.  
Patricians.

シタル方法ニ倣ヒ之ヲ四大期ニ區別スルヲ便利トス

第一期 羅馬建國ヨリ十二銅表制定ノ時ニ至ル

第二期 十二銅表ヨリシセロノ世ニ至ル

第三期 シセロヨリアレキサンドトシトベラスノ世ニ至ル

第四期 シトベラスヨリシヤスチニアノ世ニ至ル

第一期 羅馬建國ヨリ十二銅表ノ時ニ至ル即耶蘇紀元前七

百五十年ヨリ四百五十年マテ建國後三百年ノ間

羅馬ノ最古キ憲法

羅馬ハ建國後數百年ノ間有限君主政体ニシテ其君主ヲ「レツキス」ト稱

シ人民ヨリ撰擧セラレ終身其位ニ在ルモノトス君主ノ外ニ元老院

アリ

王ノ撰擧及王ノ發議スル處ノ法律ヲ制可スルコトハ國會ノ權ニ屬ス

政權ヲ有シタルモノハ貴族ニ限リ其他ノ人民ハ元老院議官タリ僧侶  
 タルコトヲ得サルノミナラス國會ニ入ルコトヲモ得サリシナリ  
 建國ノ初年ニ在テ羅馬ニ三族アリ「ラムチス」「チ、ース」「ルーセリース」  
 ト稱シ人民ハ必ス此三族ニ属セシモノナリ而シテ此三族ヲ三十部ニ  
 分チ部ヲ三百組ニ分ツ各組ノ長ヲ以テ元老院ノ議官ニ充テ各組ヲ組  
 織スル家族ノ長ヲ以テ國會ヲ構成ス  
 後年ニ及ヒ羅馬人ハ其城郭外ニ住居セル「ラテン」人種ヲ征服シタリ是  
 ニ於テカ舊來ノ羅馬三族ヲ貴族トシ此征服セラレタル人民ヲ平民ト  
 セリ平民ハ政權ニ與ルコトヲ得スト雖民權ハ之ヲ享有セリ  
 然ルニサーピアースタルリアス王ノ世ニ至リ平民モ貴族ト同ク租稅  
 チ負擔シ政治ノ權利ニ與ルコトナシ五年毎ニ戶籍ヲ調査シ人々ノ貧  
 富ニ應シテ之ヲ「センチユリアタ」ト稱スル階級ニ區別シ國會ニ於テ各



共和政体

級一箇ツ、ノ投票權ヲ有シタレハ是ヨリ國會ヲ稱シテ「コミシアセン  
チユリアタ」ト云フ此國會ニ於テ制定シタル法律ハ羅馬ノ最終ノ王タ  
ルターグインノ世ニ於テ大僧正パブリアスバピリアス之ヲ編纂シタ  
リト言ヒ傳フレトモ其後世ニ遺存スルモノ甚タ稀ナリ

共和政体ノ世

建國后二百四十四年ニ王ヲ逐ヒ君主政体ヲ廢シ共和政体ヲ起シタリ  
二人ノ統領ヲ置キテ國事ヲ統宰セシム其任期ヲ一年トシ毎年之ヲ改  
撰ス但シ貴族ノ内ヨリ之ヲ撰拔スルヲ要ス  
此頃ニハ己ニ「センチユリース」階級ノ國會ノ設アリテ平民モ政務ニ參  
與スルノ權ヲ有スト雖貴族ノ勢力ハ依然トシテ強盛ヲ極メ往々平民  
ヲ壓倒スルノ勢アルヨリシテ此兩族ノ間ニ不和ヲ生シ遂ニ建國後二  
百五十年ニ至リ平民ノ「ツライビュンス」ヲ設ケ平民ノ中ヨリ其役員ヲ

十二銅表

撰任シ専ラ貴族ノ壓抑ニ抵抗シテ平民ノ權利ヲ保護スルコトヲ掌ト  
 ラシム蓋ツライビユンノ職ハ元統領及元老院ノ決議ヲ駁撃シ廢棄  
 權ヲ使用シテ之ヲ無効トスルニ止リタレ凡シカラスシテコミチイ  
 スツライビユチスト稱スル民會ニ於テ平民ノ爲メニ法律ヲ發議スル  
 ノ權ヲ得タリ此民會ニ於テ平民ハ投票ノ權ヲ有シ若シ右ノ發議ヲ可  
 決スルトキハ之ヲプレビシタ法ト稱ス  
 ツライビユンノ外ハ平民ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得ル所ノ役員アリイ  
 シリトス是ナリイシリトスニツライビユンノ補助ヲ爲スモノニシ  
 テ警察其他公安ニ關スル事務ヲ掌トル  
 十二銅表  
 貴族平民ノ争ヒ尙ホ結テ解ケス之カ爲メニ建國後第三百年ノ終リニ  
 至リ遂ニ著名ナル十二銅表ヲ編纂スルコトナレリ蓋此法律ヲ編

纂シタル所以ハ當時現ニ行ハレタル法律ヲ明文ニ掲ケ各人殊ニ平民ノ權利ヲ保護シ貴族ヲシテ其司法權ヲ濫用スルコトヲ得サラシメ且ツ羅馬國內各市府ニ存スル區々ノ慣習ヲ舉ケテ之ヲ一國法ニ歸セシメントノ意ニ出テタルモノナリ傳ヘ云フ羅馬ヨリ三名ノ委員ヲグリ  
一キノアゼンス及ヒ其他ノ市府ニ派遣シテ有名ノ法律ヲ研究セシメタリ此委員ノ復命スルヤ紀元前四百五十二年ニ十名ノ役員ヲ撰ミ共和國ノ爲メニ法律ヲ編成スルノ全權ヲ與ヘタリ此役員ハ先ツ十表ヲ制シテ之ヲ公ニシ次年ヲ以テ更ニ二表ヲ増加シタリト云フ此法律ハ元老院ニ於テ可決シタル上國會ニ於テモ正肅ニ認可シタルモノナリ而シテ之ヲ十二ノ板面ニ鐫刻シ法庭ノ最モ人目ニ觸レ易キ場所ニ掲示シタリト云フ此法律ハ國會ニ於テ認可シタル者ナレハ時ニ之ヲ法「レツキス」ト呼ビ或ハ之ヲ調査シタル委員ノ十名ナリシニ因テ「レツ

十二銅表  
ノ傳來

キスデセムブイラリストモ稱シ優等ナル勢力ヲ有シシヤスチ  
ニアン帝ノ時ニ至ルマデ數百年ノ間羅馬私法ノ柱礎タリシモノナリ  
十二銅表ノ傳來

此表ハ「ゴール」人カ羅馬ヲ侵略シタル後再ヒ之ヲ拾收シタルコトハ傳  
記ニ明ナリ然ルニ今日ニ至テハ又散逸シテ其全部ヲ窺フコトヲ得ズ  
唯僅少ノ遺物ト學者ノ推測トニ依テ僅ニ其一班ヲ知ルニ過キス此銅表ノ  
法律ヲ考證シタルハゼトムスゴデフロイノ功大キニ居リ近世ニ於テ  
ハホーポールド及ヒダークソンノ二人大ニ之ニ力ヲ致シタリ

第二期

第二期

十二銅表ヨリシセロノ時ニ至ル即耶蘇紀元前四百

五十年ヨリ同百年マテ建國後三百年ヨリ六百五十

羅馬領地ノ擴張

貴族平民  
ノ變遷

此頃マテハ羅馬ハ叢爾タル一小區ヲ擁スルニ過キサリシ蓋南部伊多  
 利ハ希臘人ノ殖民セルモノニシテ北部伊多利即現今ノロンバルシ  
 一及ヒベニスセノアノ地方アルプス山麓ニ至ルマテハゴール人種ノ  
 移住シタル所ナリ故ニ此北部地チガリアシサルビナト稱ス此第二期  
 ニ及ヒテ是等ノ地方ハ都テ羅馬人ノ征服スル所トナレリ但南部ハ單  
 ニ附屬同盟國トナリシマテニテ自ラ國會元老院行政官ヲ有シ依然ト  
 シテ外國人ノ地位ニ立テリ<sup>以</sup>ペレীগリニース北部及ヒ其他ノ征服セ  
 ラレタル地方ハ羅馬人民ノ隸屬トナリ土地ハ羅馬人ノ所有ニ歸シ羅  
 馬ヨリ派遣シタル奉行ノ支配ヲ受ケタリ此地方チ<sup>ル</sup>フロピンシアト稱  
 ス

貴族平民ノ變遷

平民ハ遂ニ貴族ト結婚スルノ權元老議官其他ノ官吏ニ任スルノ權ヲ

國憲ノ種類

得タレハ兩族ノ間殆ント差等ナキニ至レリ然ルニ國事ニ勳功アリタル人ノ子孫ハ自然常人ニ優リタル地位ヲ得元老議官ハ大抵此輩ノ内ヨリ撰任スルノ慣習ヲ生シタレハ恰モ新貴族ノ起リタルト同様ノ有様アリキ

國憲ノ變更

「コミシアセンチエリアタ」國會ノ重要ナル職務ハ羅馬人ニ撰スル刑事裁判權宣戰媾和ノ權上等官吏撰任ノ權等ナリ「コミシアトライビウタ」ハ下等ノ官吏ヲ撰任シ法律ノ議案ヲ認可シテ「プレピンタ」法ヲ制定スルノ權ヲ有ス

元老議官ヲ指名スルノ權ハ始メハ統領ニ屬セシカ今ハ調査官ニ移リタリ議官ハ五年毎ニ改撰スルヲ例トスレモ一旦撰任セラレタルモノハ相當ノ事故アルニアラサレハ重テ撰任スヘキモノトス元老議官ノ

權ハ國會ノ強大ニ赴クニ從ヒ大ニ減縮シタレ<sub>レ</sub>且屬國ノ奉行ヲ任免ス  
 ルノ權及國會ノ手ヲ經スシテ規則<sub>レ</sub>ヲ制定スルノ權ヲ有シタリ  
 行政官ハ版圖ノ廣大ニ赴クト共ニ其數ヲ増セリ第一ニ統領ノ補助官  
 數名ヲ増セリ第二ニ建國後三百十一年以來五年毎ニ二名ノ調査官ヲ  
 撰ム(又ハ一年半  
每ニ此フ云)其最モ重要ノ職ハ元老議官ヲ指名シ人民ノ階級ヲ定ム  
 ルノ外民事ノ裁判權ヲ有スルコトナリ但建國後三百八十七年以來調  
 査官ノ外ニ民事專任ノ官吏「プレートル、ウルバナス」ヲ設ケタリ其職ハ  
 單ニ羅馬人ト羅馬人トノ訴訟ヲ裁判スル權ノミヲ有ス然ルニ外人ノ  
 羅馬ニ入込ム者日ニ益々多ケレハ「プレートル、ペレクリナス」ト稱スル民  
 事裁判官ヲ設ケ羅馬ニ於テ起ル外人間ノ訴訟并ニ羅馬人ト外人トノ  
 間ノ訴訟ヲ取扱ハシム後新ニ四名ノ「プレートル」官ヲ設ケ文武奉行ト  
 シテ地方ヲ巡回セシム

建國後三百八十七年以來二名ノ「イリヂリ」ヲ以テ羅馬ノ警察ヲ總  
宰セシム

法律ノ種

類

法律ノ種類

十二銅表ノ時以後ニ發達シタル法律ヲ分チテ成文法及ヒ不文法ノ二  
種トス尤モ羅馬法ノ發達ハ立法部ノ手ニ成ルヨリハ判事法律家等ノ  
手ニ成ルモノチ多シトス

第一立法

甲法

第一立法

甲法カレ「シエス」

元老院ニ於テ發議シ國會ニ於テ羅馬人民カ可決シタルモノチ嚴正ナ  
ル意味ニ於テ法ト云フ是ハ私法ヨリハ公法ニ屬スルモノ多シ

乙カLeges  
乙民會法

乙「トライビユチス」會制定ノ法

「プレビシタ」法トハ「コミチイス」ツライビユチス會ニ於テ「ツライビユン

羅馬法



又「役ノ發議ニ依リ同會ニテ議決シタル法ヲ云フ此法ハ元ト平民ノミ  
ニ對シテ効力ヲ有シタルモノナレトモ統領ホレイシアス及ビバレリア  
スノ世ニ於テ之ヲ一般人民ノ遵奉スヘキ者ト定メタリ此法ハ「レীগ  
エス」ニ比スレハ私法ニ渉ルコト稍多シトス

丙 元老院制定ノ法（セネタータス、コンサルタ）

此法ハ元老院カ人民ノ同意ヲ待タスシテ發シタルモノニシテ多クハ  
公法ニ關セリ最初ニハ平民ハ此法ニ服スルコトヲ欲セザリシカ元老  
議官カ彼ノ「アレビシタ」ヲ遵守シタルカ故ニ平民モ亦終ニ此法ヲ奉戴  
スルコトヲ肯ゼシ者ナリ

第二 慣習ノ法

慣習ノ法トハ祖先以來慣行シ來リタル風俗慣例又ハ何レノ時代ヲ問  
ハス人民ノ輿論慣習ニ據ル法及同様に事件ニ關シ裁判官カ同様に判

丙 元老院  
法

Senatas  
consalta

第二慣習  
法

第三執法官ノ規程

決チ下シテ生シタル慣例等ヲ云フ

第三 執法官ノ規程(エシクト、オフ、プレートル)

「プレートル」カ就職ノ節必ス其在任ノ一年中ニ法律ヲ施行スル手續方  
法ニ關スル規則ヲ告示スルノ例アリ是ハ特リ「プレートル、ウルベナス」  
ニ限ラス「プレートル、ヘレグリナス」及「ヒ、イーヂリス」モ亦同様ノ事ヲ行  
ヘリ新役員ハ就職ノ節前任ノ制シタル規程ヲ廢シ新ナル規程ヲ作ル  
ノ權アレトモ大抵ハ前任ノ規程ヲ採用シ之ニ多少ノ増減ヲ施スノミ  
執法官ガ規程ヲ發スル眞ノ目的ハ羅馬古來ノ法律ヲ施行スル方法ノ  
外其足ラサルヲ補ヒテ世ノ進歩ト共ニ生シタル人民ノ需用ヲ満足セ  
シメントスルニ在リ故ニ古來ノ法律ハ之カタメニ往々變更ヲ來シ之  
ニ依リテ公平ナル法律ヲ發達セシムルコトヲ得タリ故ニ此法ヲ「ジャ  
スオフロリアムト」稱シ恰モ英吉利ノ衡平法ト其趣チ同クスルモノナリ

第四法律家ノ説及著書

第三期 <sup>れ</sup> Responsa prudentiam

政權變遷

第四 法律家ノ説及著書

羅馬ノ法律家ハ人民ノ依頼ニ應シテ法律ニ關スルコトヲ忠告シ且ツ  
裁判官ヨリ難件ニ付キ下問アルトキハ其意見ヲ陳述ス之ヲレスポンス  
ト、アルデーノタムト云フ然レトモ是唯法律家一個ノ私見ニシテ國ノ法  
律ト見做スコトヲ得サリシカ後ニ及テ一般ニ法律社會ノ者之ヲ採用  
シ裁判所ニ於テモ亦之ヲ認ムルニ至リテ遂ニ法律タルノ効力ヲ有ス  
ルコト、ナレリ之ヲセンテンシアレセバト云フ

第三期

至ル即耶蘇紀元前一百年ヨリ紀元後二百五十年ニ  
至ルマテ建國後六百五十年ヨリ一千年マテノ間ナ

政權ノ變遷

地 羅馬ノ領

此第三期ノ初メニハ羅馬ハ實際一人ノ專制君主ノ支配スル所タリシ  
 カ尙ホ共和政治ノ名目ヲ存シタリシ然ルニシーサル、ナクマピアス  
 後三十一年ノ世ニ至リテ名實共ニ純然タル帝政國トナリ從來統領トライ  
 ビウン「プレートル」調査役僧長ノ有シタル權力ハ悉ク帝ノ一身ニ集合  
 セリ國會ハ尙ホ存在スレモ其實權ハ已ニ去レリ宣戰媾和ノ權ハ帝之  
 チ握有シ官吏ヲ撰任スルノ權ハ元老院之ヲ司トル且ツ元老院モ國政  
 上ノ權力ハ大ニ帝權ノ爲メニ抑制セラレタレトモ唯帝勅ヲ奉セサル刑  
 事裁判所タルノ權力ヲ得タリ其他共和政体ノ時ノ官職ハ大抵有名無  
 實ニ歸シタリ「プレートル」ノ民事裁判權ハ本期ノ末年マテ存シタレト  
 モ此外更ニ民事中ノ格段ノ部分ヲ管轄スル「プレートル」官ヲ設ケタリ

羅馬ノ領地

第三期ノ始メニ於テ伊太利ハ全ク羅馬市府ノ人民ト同等ノ權力ヲ得

次テ「ガルリアシカルピナ」地方モ大ニ其權力ヲ増シタルカアントニナ  
 スカラカラ帝ノ時ニ至リ羅馬ノ諸領地ノ人民ハ渾テ羅馬市府ノ人民  
 ト同權ヲ享受スルコト、ナレリハドリアン帝ノ時ヨリ羅馬府ヲ除キ  
 伊太利全國ヲ五區ノ裁判管轄地ニ分チタリ

法律ノ種類

第三期ニ於テ法律ニ變更ヲ施ス所ノ機關ヲ擧ケレハ

第一 人民ノ法令デクレツ

第二 元老院ノ法

第三 帝ノ法エ(コンスチ、ユシヨン、プリンシピアム)

第四 「プレートル」ノ規程

第五 法律家ノ說

第六 註釋家ノ註釋

Edicta  
Decreta  
Rescripta

第一本期ニ於テハ人民ノ權力ハ既ニ衰ヘタリト雖尙ホ其初年頃ニ發  
布シタル法令鮮シトセス  
第二元老院ノ法ハ人民ノ法ノ減少スルニ從ヒ大ニ重要ノモノトナリ  
本期ノ末ニ至ルマテ強盛ヲ極メタリ  
第三帝ノ法令ハ本期ニ於テ始メテ顯ハレタル法律ナリ渾テ帝ノ發シ  
タル法令ヲ「コンスチテューション」ト稱スレトモ之ヲ細別スレハ凡ソ  
三箇ノ別アリトス  
一 帝ニ布告シタル法律(エシクタ)  
二 帝ニ伺ヒ始審ノ訴ヲ爲シ又ハ上告ヲナシタル時帝カ親ラ下  
三 訴訟ニ關シ訴訟人又ハ裁判官ヨリフ伺ヒニ對シ帝ノ與ヘタ  
ル答(レスクリプタ)

第四「プレートル」ノ規程ハ本期ニ於テモ之ヲ發スルノ例ヲ改メサリシ  
 規程ハ羅馬ノ私法中ニ最モ重要ノ原素ヲ與ヘタルモノナリ始メテ之  
 ニ註解ヲ加ヘタルハシイザルノ友人オフィリアスト云フ人ナリ

ハドリアン帝ノ世サルピアスジュリアナスト云者ハ勅命ヲ奉シテ從  
 來ノ錯雜紛乱セル規程ヲ編纂シ元老院ハ紀元後百三十一年ニ其編纂  
 ノ規程ヲ公認シタリ是ヨリ後ハ此規程ニ増減ヲ施スコトナシ故ニ之  
 ヲ永久規程ト稱ス  
 第五法律家ノ說ハ共和政体ノ頃ヨリ羅馬人ノ一般ニ尊敬スル所タリ  
 シカ法律ノ効力ヲハ有セスオーガスタス帝ノ世ニ至リ有名ノ法律家  
 ナ撰拔シ特ニ國法ヲ説明スヘキ權ヲ與ヘケレハ此特權アル法律家ノ  
 說ハ他ノ法律家ニ比スレハ遙ニ強キ効力ヲ有スルコト、ナレリ然ル  
 ニハドリアン帝ハ特權アル法律家ノ說一致スルトキハ其說ヲ以テ直

況 法學ノ景

Proculeans  
Sabinians

ニ法律ト認ムヘシト定メ若シ諸説異議アル場合ニハ裁判官ノ見込ニ任スルコト、セリ

法學ノ景況

本期ハ羅馬法律學ノ最モ盛大ヲ極メタル時期ニシテ法律家ハ争ヒテ著述註釋等ヲ出シ法律ヲシテ完全ノ域ニ達セシメタリシヤスチニアソ帝カパンデクトヲ撰ムニ方リテ當時ノ法律家ノ著書ニ據リタルチ最モ多シトス

オーガスタス帝ノ時ニ於テ法律家ノ中ニ二箇ノ學派ヲ生シ一ヲプロキユリアンスト云ヒオーガスタス、ラビオノ創立スル所一ヲサピニアソズト稱シカビト（オヒリアスノ弟子）ノ統率スル所ナリ

ハドリアン帝ノ時ヨリアレキサソダ、シーベラス帝ノ死ノ時マテノ間ニ輩出シタル法律家中ノ最モ有名ナル者ノ二三ヲ擧クレハポンボ



ニアス、セルピシアス、スキーパーガイアス、パピニアン、アルピアン、ポ  
ラス、モデスチナス等ナリ

### 法律家ノ著書

## 法律家ノ著書

羅馬法律家ノ著書ハ大抵湮滅シ後世ニ存スルモノ洵ニ寥寥タリ幸ニ  
今日ニ傳ハリテ大ニ法律學ニ裨益ヲ與ヘタルモノチガイアスノ「イン  
スチ、ユート」トスガイアスハ紀元後百六十九年頃ノ人ナリガイアス  
カ敎課書ヲ顯ハシタルトノコトハ傳説ニテ久シク後世人ノ聞知スル  
所タリシモ徒ラニ其名ヲ聞クニ止マリ本書ヲ窺フタルモノハ曾テ之  
レ無カリシニ千八百十六年日耳曼ノ史家ニーズール氏ガ伊太利ニ遊  
歴シベロウナ府ノ書籍館ニ於テ一箇ノ寫本ヲ閱覽セシニ二重ニ文字  
ヲ記シタルモノニテ上ニハセントゼロームノ書狀ヲ認メタリ然ルニ  
其文字ノ下ニ認メタルモノハ則チガイアスノ手跡タルコトヲ發見セ

第四期

羅馬帝國ノ變遷

シカハ伯林ノ博士ゴツシエン氏ニ托シテ之ヲ讀ミ分ケタルニ果シテ  
 ガイアスノ著シタル教課書ナリシ本書ハ羅馬法律ノ歴史ヲ學ブニ最  
 モ必要ノ者ニシテ此發見以來歐州ノ羅馬法學ヲ一新シタリギアスチ  
 ニアン帝ノ教課書ハ專ラ本書ニ據ル者ナリ

又アルピアンノ「フラグメント」ハ些々タル小冊子ナレトモ簡明ニシテ  
 法律ノ諸部ニ涉リタルモノナレハ是又極メテ有益ノ書ナリ「シヤスチ  
 コアン」帝ノ「ダイゲエスト」ハ此書ニ據ルヲ最モ多シトス

第四期

アレサンダー、シーベラスヨリギヤスチニアン帝ニ  
 至ル即耶蘇紀元後二百五十年ヨリ五百五十年マ

羅馬帝國ノ變遷

紀元後二百三十五年アレキサンダー、シーベラス帝ノ死後羅馬帝國ハ

俄カニ衰頹ノ兆ヲ顯ハシ政体ハ武斷專制ニ陥リタリ三百〇六年ノ頃  
 コンスタンタイン帝ハコンスタンチノプルヲ恢復シ羅馬ノ政府ヲ此  
 ニ移シタリ三百九十五年帝國ヲ東部西部ノ二ツニ分ツ四百七十六年  
 北方ノ蠻族ヘルリ王オドアサー西帝國ヲ陥ル次テシオドリツク王來  
 リテオドアサーヲ逐ヒ遂ニ伊太利ニオスツロゴスノ王國ヲ創立シタ  
 リ東帝國ハ一千四百五十三年マデ存シタレトモ終ニ土耳其人ノ爲メ  
 ニ滅ボサル

羅馬法律ノ變更

羅馬法律  
ノ變更

帝ノ權力ノ強大ニ赴クニ從ヒ勅令イザクトハ益々其數ヲ増シコンスタンタイン  
 帝ヨリ以後ハ羅馬ノ私法ニ増減ヲ施シタルモノハ概テ勅令ニ限リタ  
 ル程ナリ但此時ニテモ彼十二銅表ハ尙ホ羅馬法ノ大根本ナリト認メ  
 テレ其以後ノ諸法ハ皆之ニ修正ヲ施スタメニ出テタリト見做シタリ

成典

由法律家ノ著作ニ付テノ勅令  
シテドシアス二世ハ四百二十六年勅令ヲ下シテパピニア  
ガイアスアルピアン及ヒモデスチナスノ著書ハ法庭ニ於テモ法律  
ルノ効力ヲ有スヘク若シ諸家其說ヲ異ニスルトキハパピニアノ  
ヲ採用スヘキコトニ定メタリ  
グレゴリアン及ハ一モシニアン成典  
帝ノ法令大ニ其數ヲ増加シタレハ之ヲ二冊ノ書ニ編纂シタリ即  
ゴリアン及ハ一モシニアン成典ト稱スル者是ナリコレハ  
タニイン帝ノ頃民間ノ人ノ手ニ成ルモノナルカ散逸シテ後世ニ傳  
ラズ

第四百三十八年シオドシアン帝ノ勅ニ由リアンチオ  
カスノ總裁ニ

チアスチ  
ニアノ帝  
ノ大業

テコンスタンタイン帝ヨリ同帝マデノ間(凡百二十六年間)ニ公布シタル帝ノ法令ヲ編纂シタルハ古來有名ナル成典ナリ編中分ツテ十六卷トシ一題毎ニ年月ヲ追テ纂集セリ後世ニ遺存セルハ初ノ五卷ノミ餘ハ大抵傳ハラズ此成典ハ東西兩帝國ニ於テ同様ニ實施シタルモノナレト東帝國ニ於テハヂヤスチニアノ帝ノ成典ノ出テタル爲メ其効ヲ失ヒタリ西帝國ニテハ羅馬ヲ侵取シタル諸蕃族大ニ之ヲ尊重シ長ク法律ノ効ヲ保チタリ

第十七世期ニ於テゼームスコデフロイト云フ法律家三十年間ノ勉強ヲ以テ此成典ニ註釋ヲ施シタリ

チアスチニアノ帝法律編纂ノ大業

ハドリアン帝以來諸帝ノ發シタル法令漸ク其數ヲ増シ且ツ時勢ノ變遷ニ由リテ無要ニ屬スル所モ多ケレハヂヤスチニアノ帝ハ五百二十

八年十名ノ法律家ニ命シテ之ヲ取捨シ編纂スルコトニ任ゼシメタリ  
翌二十九年編纂ノ業ヲ了ス國ノ法律トシテ公布シタリ之ヲ「コード」  
キスベタス」ト云フ  
然ルニ其後帝ガ新ニ許多ノ法令ヲ制シタルニ由リ更ニツライボニア  
ンチ總裁トシテ四名ノ委員ヲ置キテ「コード」ヲ修正セシメシハ五百三  
十四年ノコトニテ之ヲ「コード」デツキス、レベチシア、ブレクシヨンス」ト稱  
シ後世ニ遺存スル者ナリ

〔パンデクト〕

五百三十年十二月帝ハトライボニアヲ總裁トシ十六名ノ委員ヲ撰  
ミ古來最モ有名ノ羅馬法律家ノ著書ヨリ當時ニ適切ノ法律ヲ編纂ス  
ルコトヲ命シ期スルニ十年ヲ以テシタルニ僅ニ三年ヲ越ヘテ此大業  
ヲ成就シ五百三十三年十二月十六日「ダイゼスト」又ハ「パンデクト」ト云

フ名ヲ以テ之ヲ公布シ法律タルノ力ヲ有セシメタリ

編纂者ノ參考シタル法律家三十九名著書ノ數二千餘凡三百萬行ノ法律ヲ折衷シテ一部ノ書中ニ収メ凡十五萬行ニ減シタリ參考シタル法律家中共和政體ノ世ニ屬スル者ハ僅ニ三名ノミ帝政ノ初年ニ於ケル法律家ハ殆ド一人モナシ去レバ「パンデクト」ニ編述シタル著書ハ大抵ハドリアン帝ノ永久規程ノ時ヨリアレキサンダー、シーベラスノ死ニ至ルマデノ間ノ法律家ナリ就中アルピアンノ書ヨリ取りタル者三分ノ一ニ居ル本書ヲ分チテ五十卷トシ每卷ヲ章ニ立ツ章ノ數都テ四百四十許ナリ編纂ノ法ハ順序調ハス頗ル後世學者ノ非難ヲ受クレトモ法理ノ無盡藏タルコハ萬人ノ共ニ許ス所ナリ本書ノ發行後ハ從來ノ法律書ヲ用フルコハ全ク之ヲ禁止シ且本書ニ註釋ヲ施スコトヲモ許サズ

教課書「インスチチュート」

帝ハテチヲフ井ラス及ドロテアス二人ニ命シトライボニアニテ総裁トシテ法律學ノ初歩ヲ編纂セシメ五百三十三年ノ末ニ公布シ之ニ法律タルノ効力ヲ賦與セリ專ラガイアスノ敎課書ニ基キ多少ノ變更ヲ施シタルニ過キス

全編ヲ四卷ニ分チ每卷ヲ章ニ分ツ章ノ數總テ五十九アリ殆ト私法ノミニ限リ人事篇財産篇及訴訟篇ノ三部トシ第四卷ニ於テ公法ヲ略論セリ次序排置ノ整頓セルハ法律書中本書ニ如クモノナシト云フ古ヨリ本書ヲ翻譯シ摸擬シ註釋シテ出版スル一年トシテ見サルノ年ナシト云ヘリ

新法「ノールベル」

五百三十四年ニ帝ノ法令ヲ再編輯シタレトモ其後帝ノ在位ノ間即五百六十五年ニ至ルマテニ又々許多ノ法令ヲ發シタリ之ヲ「ノールベル」ト



羅馬法律

大全

Corpus juris civilis  
Pandect

シヤスチ  
ニアソ帝

ノ後羅馬  
法ノ衰亡  
及其再興

東方ニ於  
ケル羅馬  
法ノ盛衰

稱ス「ノールベル」ハシアスチニアソ帝自ラ編纂セシメタル者ニアラス帝  
ノ死後法律教師シユリアンカ百二十五箇ノ「ノールベル」ヲ發行シタリ

羅馬法律大全 「コーパス、ヂユリス、シピリス」

後世歐羅巴洲ニ於テ講修スル所ノ羅馬法ハ羅馬法律大全ト稱スル者  
ニテ即「インスチ、ウト」<sup>ハ</sup>「パンデクト」「コード」ノベル」ヲ合併シタル者  
ナリ

### 第一章

シアスチニアソ帝ノ後羅馬法ノ衰亡及其再興

東方ニ於ル羅馬法ノ盛衰

東帝國ニ於テハシアスチニアソノ編纂セシ諸法律ヲ希臘語ニ翻譯セ  
シノミナラス後ニ出テタル「ノールベル」ノ如キハ大抵始メヨリ希臘語ヲ  
以テ布告シタリ此等ノ希臘語ノ法律及之ニ註釋シタルモノハ原書ヨ

リモ盛ニ東帝國ニ於テ行ハレタリ東帝國ノ諸帝ハ許多ノ勅令ヲ發シ  
テシアスチニアンノ編纂法ヲ變更シ其他政府ニテ希臘語ヲ以テ作り  
タル法律書ノ屢出テタル爲メシヤスチニアンノ法律ハ漸々其効力ヲ  
失フニ至レリ八百七十八年ニバシリアス帝ハ<sup>ic</sup>インスチ、ウト<sup>is</sup>ダイセ  
スト<sup>h</sup>「コード」ノ「ノベル」等ニ記載セル法律ヲ其論題ノ異同ニ從ヒテ合併  
編纂シ之ニ後年ニ發シタル勅令ヲモ加ヘンコトヲ企テタリ此書ヲ名  
ケテ「パシリカ」ト云ヒ都テ六十卷ニ分ツ其子リオ帝ノトキニ至テ之ヲ  
完全シタリ此書ハ東帝國ノ亡フルマテ効力ヲ有シタルモノナレトモ  
不幸ニシテ後世ニ傳ハリタル者完全ナルヲ得ス千六百四十七年ニフ  
エブロート云フモノ<sup>ic</sup>巴里ニ於テ之ヲ出版シタリ三十六卷ハ完全ナレ  
トモ餘ノ七卷ハ不完全ナリ尙四卷ハ後年ニ至リテ之ヲ發見スル者ア  
リテ上梓セリ

コンスタンチン、ハルメノビウラスト云フ判事ノ著シタル「プロムプチ  
ウアリアム」ト稱スル書ハ「バシリカ」ト共ニシアステニアン帝ノ法ヲ詳  
明スルニ甚有益ノ書ナリ故ニ第十六世紀ニ佛國ニ於テ羅馬法ノ歴史  
學派ノ創立者タルチ以テ有名ナル「キニシアス」ハ多ク此書ヲ引用シタ  
リ

### 西方ニ於ル羅馬法ノ盛衰

西方ニ於  
ケル羅馬  
法ノ盛衰

Goth

シアステニアン帝ガ編纂法ヲ發シタルトキニ當リテハ「意大利」ハ「ゴス」  
人種ノ占據スル所ナリシカハ帝ノ編纂法ハ專ラ東帝國ニ於テ施行ス  
ルノ目的ナリシナリ  
蓋四百十五年ニ「ヒシゴス」ハ南部ノ「ゴトル」ニ王國ヲ起シ同世紀ノ半頃  
ニ「ブルガンゼア」人種ハ「ロートン」河畔ニ沿ヒ同ク王國ヲ構ヘ「オスツ」  
ゴス」人種ハ四百九十三年頃意大利ヲ占有シタリ

<sup>り</sup> Lex romana durgan  
dioram

<sup>ち</sup> Lex romana visigo  
thotam

「エヂクタクム、テオドリシ、ハ五百年ニ」オストロゴス「王國ニ於テ發行セラ  
ル太々簡單ニシテ不完全ノ法ナリ五百五十三年ナトセスガシアヌチ  
ニア<sup>ち</sup>ン帝ヲ爲メニ意太利ヲ恢復スルヤ此法ハ廢絶ニ歸セリ  
「レツキス、ローマナ、ビシゴソラム」ハ五百六年ニアラリツク帝第二世カ  
「ビシゴス」王國人民ノ爲メニ發シタル者ナリ專ラテオドシアン法ニ據  
レリ<sup>り</sup>「レツキス、ローマナ、ブルガンシオラム」ハ五百十七年ニ「ブルガンヂ  
アン」人ノ爲メニ制シタル者ニテ右ノ諸法中最モ不備粗漏ノ編纂法ナ  
リシト云フ此法ハ五百三十六年ニ此王國ノ敗亡ト共ニ不用ニ屬セリ  
ベルサリアス及ナトセスノ方ニ依テシアヌチニア<sup>ち</sup>ン帝ハ一時意太利  
及亞非利如チ恢復シタレハ五百五十四年ニ勅令ヲ下シテ帝ノ編纂法  
ハ此地方ニ於テモ施行スヘキ旨ヲ達シタリ但帝ノ法ハ意太利内ニ行  
ハル、マデニテゴール又ハスベインニハ及ラコトヲ得ス此地方ヲ人

種ハ日耳曼人種ノ爲メニ征服セラレタル者ナレハ此日耳曼人種カ探用シタルテナトシアン編纂法及羅馬西帝國ノ亡ヒタル頃行ハレタル羅馬法ヲ專ラ用ヒタリ若干モナク意太利ハロムバード人種ノ取ル所トナリタレハデアスチニアノ法ハ是ニ至リテ全ク西方ニ力ヲ失ヘリ然レトモ此以後デアスチニアノ法ハ全ク湮没シテ跡ヲ絶チ一千一百三十五年ニアマルフイニ於テパンデクノ寫本ヲ發見シテ忽然再興シタリトノ俗説ハサビニ一氏ノ講究ニ依テ其虛説タルコトヲ證スルヲ得タリデアスチニアノ法ハアマルフイノ征伐前ヨリ西部人民ノ大ニ研窮スル所ニシテ第九第十一世紀ノ間ニ至テハ全クテオドシアニ編纂法ニ代リテ人民ノ信ヲ得タル者ト知ラル現ニピーター、オフパレンスハ十一世紀ニシデアスチニアノ法ヲ其著書ニ引用シタルノ實例ヲ以テスルモ之ヲ證スルニ足レリ

歐羅巴ニ於テ羅馬法ノ再興  
ポロリーナノ學校

Bologna  
Glosses

歐羅巴ニ於テ羅馬法ノ再興  
ポロリーナノ學校

ア一チリアスハポロリーナニ於テ始メテ法律ノ學校ヲ起シ一千一  
ヨリ一千一百十八年マテ講義ヲナシタリ是ヨリシテ羅馬法律ハ再  
大ニ世ニ行ハル、ニ至ル當時法律家ノ專ラ務メトセシ所ハ原文ノ不  
明ナル點ヘ僅少ノ註解ヲ施スコトニ在リテ之ヲグルグロツセスト稱シ當  
時ノ學者ヲグログロセツイトースト呼ヘリアツカーミアスト云フ者此註  
解ヲ編纂シタリブアカリアスト云ヘルロムバルド人ハ一千一百四十  
九年頃ニ己ニ英國ニ渡リテオツキスフオールドニ於テ法律ノ講筵ヲ張  
レリ當時ノ英國王ステーフエンハブアカリアスノ英國ニ於テ羅馬法  
ヲ講スルコトヲ禁止シタレトモ當時學術ノ專有者タル僧侶ハ最モ羅  
馬法ヲ獎勵シ毫モ國王ノ命ヲ意ニ介セサリシト云フ

羅馬法

三十七

三十七

三十六

學者風法  
律家ノ世

Scholastic jurists

第十六世  
期ニ於ケ  
ル佛國法  
律家

學者風法律家ノ世スコラスチツク、シウリスト

註解法律家ニ次テ世ニ顯ハレタル者ヲ學者風法律家トシ第十三世紀ヨリ第十五世紀ノ末マデハ此種ノ學風盛ニ行ハレタリナドフレダス、バルトレスヲ此學派中ノ高名ナル者トス此學派ノ風ハ徒ニ高遠ノ說ヲナシテ相尙ヒ原文ヲ疎ンシテ寧ロ註釋家ノ私說ニ從フヲ習トセリ

第十六世紀ニ於ル佛國ノ法律家

第十五世紀マテハ羅馬法再興シタリトハ云ヒナカラ全ク伊太利内ニ於テ盛大チ致シタルニ止マリシカ第十六世紀ニ及ンテ漸ク佛國ニ再興ノ兆チ顯シタリミラン府ナルアンドレアチハ佛王フランシス一世ノ招聘ニ應シブルケス府ニ赴キ羅馬法ノ講筵ヲ開キタルニ之ヲ參聽スルノ學生雲集シタリ文學及古代學ヲ以テ法律學ニ交ヘタルハ此人ヲ以テ嚆矢トス千五百五十年バビアニ死セリ

千五百五十年<sup>わ</sup>キユシアスハブルケス府ノ學校ノ法律教師トナリ法律  
 學ノ歴史派ヲ創設シタリ此人ノ著作ニ係ル「パラチトラ」ト稱スル書ハ  
 「ダイゼスト」ヲ簡明ニ解釋シタルモノニシテ最學者ノ賞賛ヲ得タル書  
 ニシテ實ニ法律學ノ一期限ヲナス者ナリ此人ハ近代歐州ニ出テタル  
 羅馬法ノ註釋家ノ中ニテ第一等ノ地位ヲ占ムルコトハ學者ノ共ニ許  
 ス所ナリ氏ハツールトズノ産ニシテ千五百九十年ブルゲスニ死ス  
 千五百六十七年<sup>か</sup>フランシス、ホトマンハ「アメンチツリボニアナス」ト題シ  
 タル一書ヲ著シテキユシアスノ說ニ抗抵シタリ蓋ホツトマンノ此書  
 タル特リチアスチニア<sup>ん</sup>及トライボニア<sup>ン</sup>ノ法ヲ攻撃スルノミナラ  
 スバビニア<sup>ン</sup>ポトラスアルヒアン等ノ法律家ノ說ヲモ排斥シテ假借  
 スル所ナシホツトマンハ即アンチローマニスト<sup>ト</sup>學派ノ元祖ニシテ其  
 說ハ羅馬法ノ中取ルヘキヲ取り捨ツヘキヲ捨テ之ニ至當ノ改良ヲ施



シ以テ新ニ成典ヲ編纂スヘシト云フニ在リ當時佛ノ法律家ハ大抵此  
 説ニ左袒シ其勢力ノ盛ナル遂ニ千五百七十九年ニ「プロア」ノ勅令ヲ以  
 テ巴里ノ大學ニテ羅馬法ヲ講義スルコトヲ禁シタリ然レトモ其後未  
 一百年ヲ出テサルニ再ヒ羅馬法學ノ興起スルヲ見ル

第十六世紀ニ於テ大ニ佛蘭西法律ヲ擴張シタル者ヲ「チアーレス」  
 ムーラントス氏ハ巴里ノノ慣習ヲ註釋シタル書ニ於テ巧ニ羅馬法ト  
 佛蘭西法トヲ混同シタリ後世ノ學者ハ大抵之ヲ師トス有名ノボチエ  
 ーノ如キモ亦氏ノ書ニ依リテ悟ル所多シトス氏ハ千五百六十六年ニ  
 死ス

和蘭ノ法律家

第十六世紀以後ハ和蘭及西班牙ニ於テハ羅馬法ヲ講ズルコト盛ナリ  
 和蘭ヨリ出デタル學者ノ有名ナル者ヲ舉クレハグロシアスピニニア

ス、ヒユバー、シアルチング、ピンカー、シユック等トス  
第十七世紀第十八世紀ノ法律家  
第十七世紀以來羅馬法ノ行ハル、益盛ナリ最モ有名ナル羅馬法學者  
ハドマー、ハイ子シアス、バツヒ、ポチエートス  
ハイ子シアスハ日耳曼ノ法律家ニテ千七百四十一年ハルニ死ス氏ノ  
著書ハ其數甚多ク羅馬法及日耳曼法ノ歴史羅馬古代ノ事蹟インスチ  
チウト及バンデクトノ初歩等アリ何レモ廣ク世ニ行ハレタリバツヒ  
モ日耳曼ノ學者ニシテ千七百五十八年ニ死ス羅馬法ノ歴史家中最モ  
高名ナル者ナリシ  
ポチエーハ佛蘭西ノ學者ニシテ千七百七十二年ニ死ス氏ノ著シタル  
佛國法律書ハ成典ノ出ツル前ニ於テハ最モ完全ナル書ナリシ又氏ハ  
羅馬法ニ付キ最モ有名ナル書ヲ著作セリバンテクトト稱スル者はナ

リ其目的トスル所ハザアスチニアノ編纂シタル諸編ノ法律書ハ排  
置ノ混乱セルカ故ニ學ブニ便ナラサレハ此數篇ノ書ヲ網羅シテ之ヲ  
一部ノ書ニ収入シ論題ノ異同ニ從ヒテ之ヲ區別スルニ在リ十二年ノ  
功勞ヲ積ミ遂ニ此大業ヲ成就シ拉丁語ヲ以テ之ヲ綴リタリ

英國ノ羅馬法學者

英國ハ古來羅馬法學者ニ乏シアトサーダツクリチヤードツイチユウ  
ウードテイロー、ブラウン、ナト云フ人々ハ羅馬法ニ關スル著書アレト  
モ皆稱スルニ足ルモノナシ獨リギブボンハ其羅馬衰頽史ノ第四十四  
章ニ於テ羅馬法律ノ概略ヲ簡約ニ敘述シタルハ羅馬法學者ト稱スル  
人々ト雖敬服スル所ナリ千七百八十九年ニ日耳曼語ニ翻譯シ千八百  
二十一年ニ佛語ニ譯シタリ近世ニ至リテハ英國ニ於テモ羅馬法律家  
ヲ出スコト敢テ少ナシトセス就中コルフーンノ著書ハ最モ心ヲ用ヒ

タルモノナリ。日耳曼ノ歴史法學派ノ源流ハ五箇ノ書ニ在リ。一、グロテノ「日耳曼ノ法律」ハ五箇ノ書ニ在リ。二、グロテノ「日耳曼ノ法律」ハ五箇ノ書ニ在リ。三、グロテノ「日耳曼ノ法律」ハ五箇ノ書ニ在リ。四、グロテノ「日耳曼ノ法律」ハ五箇ノ書ニ在リ。五、グロテノ「日耳曼ノ法律」ハ五箇ノ書ニ在リ。

古來日耳曼ハ羅馬法ヲ講究スルコト最勉メタル國ナルカ第十八世紀ノ末以來新種ノ歴史法學派ト云フ者ヲ生シタリ畢竟從來羅馬法律書ノ埋没シテ知レサル者近世ニ及ヒ漸々發見セラレタルコト其大原因ナリトス即ガイアスノ教課書「シチドシアン」成典「ゼフラグメント、バチカナ、ゼレビユブリツク、オフ、シセロ、ゼ、レトリツク、オフ、シウリアス、ブイクトル、ゼ、フラグメント、オフ、シムマカス」等ノ發見ニ由リ従前學者ノ知ラサリシ事實ヲ發明シ從來ノ誤說ヲ正シタルヨリシテ羅馬法ハ全ク其面目チ一新シタリ而シテ此事ニ關シテ著名ノ學者ハヒュゴ、ホーデルド、チボ、ニール、サビニ、ナリニールハ一千八百十一年ニ羅馬歴史ヲ著シタリ歴史派ノ首座ヲ占メタル者ハ柏林ノ教師

サビニ一ニシテ千八百六十一年八月十三歳ニテ死セリ其著書ノ中最モ  
高名ナル者ハ「ボゼシヨン」中世羅馬法ノ歴史及現存羅馬法族ナリ「パン  
シエロー」ハハイデルベルヒノ羅馬法教師ニシテ「パンデクト」ノ註釋ヲ  
爲シタルノ故ヲ以テ世ニ知ラル

### 第三章

#### 羅馬人ノ法律ノ區別

法學「ヂユリスプルデンシア」

羅馬ノ法律ハ固ト道德ニ根據スルモノニシテ羅馬人ハ近世ノ學者ノ  
如ク法律ト道德トヲ區別スルコト精密ナラス故ニシアスチニアノ教  
課書ノ開卷第一ニ法學ヲ解シテ曰ク法學トハ神事及人事ノ學識ナリ  
正及不正ノ科學ナリト又云ク法律ノ格言ハ正直ニ生活シ人ヲ害セス  
各人ニ其所ヲ得セシトト云フニ在リト

公法及私法

性法萬國法及國法

Jus publicum et jus privatum

公法及私法レシユスバブリカム、エトシアスプライベータム

羅馬人ハ法律ヲ其目的ノ點ニ關シテ公法ト私法トノ二ニ區別シタリ  
公法ハ羅馬帝國ノ政府ニ關スルコトヲ定メ私法ハ一箇人ノ利益ニ關  
スルコトヲ定ム

性法萬國法及國法

羅馬法學者中法律ヲ萬國法ト國法トノ二ニ分ツ者アリ之ニ性法ヲ加  
ヘテ三ツニ分ツ者アリシアステニアン帝ハ三種ノ區別ヲ採用シタリ  
羅馬法ニ云フ所ノ性法トハ總テ動物カ天性ニ於テ固有スル所ノ法則  
ヲ指示ス女性ト男性トノ配偶ノ如キ人畜共ニ存スル所ノ法ノ如キ是  
ナリ  
各國ノ人カ共ニ法律トシテ行フ所ノモノヲ萬國法ト云ヒ一國ノ人民  
カ特ニ其國ノ爲メニ設ケタル所ノ法律ヲ國法ト云フ故ニ羅馬ニ於テ

行ハル、法律ノ性質ヲ分析スル時ハ各國ノ人民カ共ニ用フル法律ト  
 特ニ羅馬ノ爲メニ設ケタル法律トノ二原素アルコトヲ發見スヘシ  
 性法ト萬國法ト異ナル一例ヲ擧グレハ奴隸ノ制度ノ如キ當時世界ノ  
 各國ニ於テ皆此制度ヲ行ヒタルモノナレハ之ヲ萬國法ト云フヘキモ  
 性法ニ於テハ人ハ皆生レナカラニシテ自由ナルモノナレハ萬國法ト  
 反對セルカ如シ  
 國法ト萬國法トノ別ハ前述ノ如クナレトモ其實ハ必スシモ然ラス羅  
 馬學者カ國法ト稱スル者ハ羅馬ニ於テ古來行ハレタル舊法ヲ指シ云  
 フ者ニシテ即彼ノ「アレートル」官ノ制造シタル新法ニ對シテ用フルヲ  
 通常トス  
 羅馬人カ萬國法ト稱ヘタル者ハギリイキノ「ストイツク」哲學派ノ羅馬  
 ニ入リタル後ハ自然法即性法ト同一物ナリト看做サレタル「ストイツ

ク「哲學ハ」自然ニ從ヒテ生活ス」ト云フコトヲ奧義トシタル者ナル方其所謂自然トハ簡單ト云フコト、殆ト同物ナリ然ルニ羅馬ノ萬國法ト稱スル者ハ之ヲ古來ノ舊法ニ比スレハ遙ニ簡單ナル者ニテアリシニ當時羅馬法學者ハ大抵「ストイツク」哲學ニ心醉シタル者ナリシカハ終ニ哲學ニ自然ト云フ者ハ即此萬國法ノコトナルヘシト考ヘ是ヨリシテ萬國法ト自然法トナ同物ト看做スコト、ナレリ

成文法及  
不文法

成文法及不文法「ジアス、スクリプタム、ジアスノン、スタリプタム」國法ヲ分チテ成文不文ノ二種トス羅馬法ニ於テ成文ト云フハ文法上ノ意義ニ用ヒタル者ニテ即政府ノ制定シタルト否トヲ問ハス文書ニ記シタル法律ハ都テ成文法ニシテ全ク慣習ニ存スル所ノ法律ヲ不文法ト稱シタル者ナリ

人事法物  
件法及訴  
訟法

人事法物件法及訴訟法「ジアス、パーソン、チーラム、リーラム、エ



はPraetor-made-law  
 にJus Gentium  
 係Jus Naturale

Positive Law  
 Legislation

身分即不  
 平等ノ權  
 利  
 自然法及  
 固有法

ト、アクシヨナム

羅馬ノ私法ハグアイアスノ時以來全篇チ人事、物件、訴訟ノ三法ニ區別  
 スルコトヲ常トセリ

第一卷 身分即不平等ノ權利 人事篇

自然法及固有法 ヂヤス、ゼンシアム、ヂアス、シビル

凡ソ法學ハ人定法ヲ論究スルモノナリ人定法ノ唯一ノ根元ハ立法ニ  
 在リ然ルニ立法ニハ直接ノモノト間接ノモノトノ別アリ直接ノ立法  
 トハ一國ノ政治上ノ優者(統治者)カ直接ニ命令スル所ノモノヲ云ヒ間  
 接ノ立法トハ下等ノ執法者カ令達スル所ノモノヲ統治者カ默許スル  
 ニ出ツルモノヲ云フ  
 羅馬法又ハ英吉利法ヲ讀ムモノハ執法官制定法ト裁判官制定法ト云  
 フ文字ニ出逢フナラン斯ノ如キ法律ハ皆暗ニ統治者カ認許シ確定シ

人定法ト  
人定道徳  
トノ別

Law of Honor  
Law of Fashion  
Sanction

タルニ由リ法律タル効力ヲ有スルモノナリ  
羅馬法ニ於テヒザス、ヂエンシヤム普通同法又ハヒザス、ナチュレール自然法ト稱スルモノアリ是ハ羅馬ノ人定法  
ノ一部分ヲ成スモノニシテ即羅馬ノ裁判所ノ執行シ羅馬ノ行政官ノ  
施行スル法律ニ外ナラス故ニガイアスノ書ニ自然法ハ自然ニ由リテ  
生シ固有法ハ羅馬ノ立法部ニ由リ制定セラレタルモノト云ヘルハ古  
來慣熟シタル文字ヲ襲踏シタルモノトハ言ヒナカラ實ハ大ニ不適當  
ニシテ誤謬ヲ招キ易キ文字ナリ何トナレハ自然ノ命令ハ許多ノ要用  
ナル點ニ於テ政治上統治者ノ命令ト異ナル所アルヲ以テナリ  
オースチン氏ハ人定法ト其他ノ法トヲ區別スル爲メニヘロー、チフ、ナリ名譽ノ法モロ及時  
好チ、フ、ア、シ、ヨ、ンノ法ト云フモノヲ引用シテ説明セリ名譽ノ法時好ノ法ハ純粹ニ道  
徳ノ法トハ性質ヲ異ニセリ抑此等ノ法ハ之ニ背クトキハ他ノ人民ヨ  
リ己ニ對シサ、ン、ク、シ、ヨ、ン或制裁ヲ加フルモノナリ故ニ其制裁ヲ受クルコトヲ好マ

自然法ハ  
 人定法ノ  
 一タル事  
 自然法ヲ  
 作リタル

サル者ハ皆是等ノ法ニ從フヲ甘ンスヘシ而シテ立法部ノ制定スル法  
 律モ亦之ト同シク人ノ制作シタルモノニシテ之ニ違反スルモノハ或  
 苦痛卽制裁ヲ蒙ルモノナリ左レハ此點ニ於テハ時好ノ法等ト人定  
 法トハ異ナル所ナシ然レトモ他ニ此二種ノ法ノ大ニ相異ナル點アリ  
 卽時好ノ法杯ハ之ヲ作ル人不確定ナリ然ルニ政治上ノ法ハ或確定シ  
 タル立法者ノ數ク所ナリ又時好ノ法杯ノ加フル所ノ制裁ハ不確定ノ  
 人ニ依リテ之ヲ加フルモノナレトモ政治上ノ法ノ制裁ハ一定シタル  
 役所之ヲ加フルナリ  
 今羅馬法ニ言フ所ノ自然法ハ前ニ述フル如キ道德上ノ法若クハ人ノ  
 輿論ヨリ生スル法トハ大ニ其性質ヲ異ニシ明ニ人定卽政治上ノ法ノ  
 一種類ヲ成スモノナリ羅馬ノ自然法ヲ作リタル機關ハ重ニ外國奉行  
ブレイトル、ベレグリン  
 ノ規程ナリ羅馬國士ト外國人トノ關係ヲ規程スルコトハ謂ユル外國

## 機關

## 第一規程

奉行ノ管轄ニ屬スルモノナリキ爰ニ外國人ト云フハ以前ハ羅馬ニ屬セサル國ニシテ後羅馬ノ爲メニ征服セラレ羅馬法ノ保護ヲ受クルニ至リタル所ノ地方ヲ云フナリ外國奉行ハ毎年其施行スル所ノ規則ノ原則ヲ發行シ人目ニ觸レ易キ處ニ掲出セリ此原則ハ後ニ及ヒテ自然法ト號シ以テ固有法ニ區別セリ抑自然法トハ羅馬ノ奉行カ羅馬國土ト外國人トノ交際ヲ支配スルニ足ルノ規則ナリト思惟シタルモノニシテ或者ノ考フル如ク各國ノ法律ニ普通ナル原則ヲ集合シタルモノヲ云フニアラス然ルニ斯ノ如キ規則ハ漸次ニ其適用ノ區域ヲ擴メ古來存スル所ノ固有法ノ嚴刻ニ過キ民情ニ適セサル場合ニ於テハ國土ト國土トノ間ノ交際ト雖亦此自然法ヲ以テ支配スルコト、ナレリ又自然法ノ規則ヲ以テ羅馬人定法ト爲シタル他ノ機關ハ法律家ノ著書ナリ蓋著書ハ元立法部ニ於テ暗ニ之ヲ認メタルニ過サリシカ後年

第二學者  
ノ著書

固有法

自然法ノ

ミニ存ス  
ル契約

ニ及テ之ヲ明許シタリケレハ學者ハ羅馬法ヲ解釋スルヲ名トシ實ハ其  
 區域ヲ擴張スルコトヲ勉メタリ其最盛ナリシハ凡シセロノ時代ナリシ  
 固有法トハ十二銅表ノ法律ヲ云フモノニシテ後年ニ及ヒテ此法律ハ  
 リチアス、シビル  
 或ハ立法ノ手段ヲ用ヒ或ハ裁判官ノ解釋ニ由リ其意味ヲ擴充シタル  
 モノナリ爰ニ羅馬固有法ニ定ムル所ノ一二ノ規則ヲ掲クレハ財産ヲ  
 獲得スルニ「マンシペーシヨ」及「インジュルセツシヨ」ト云方法アリ契約ニ  
 ハ「子クサム」及「スポンシチ」ノ方法アリ無遺囑相續ハ「アグ子ーシヨ」即民  
 事上ノ血統ニテ相續スル等コレナリ然ルニ自然法ノ規則ニ於テ所有  
 權ヲ得ルニハ交附ツラシヨヲ以テス契約ハ別段ノ式ナキ問答ヲ以テシ無遺囑  
 相續ニハ自然上コケ子ノ親族之レカ相續ヲ爲スコト、ス  
 右ニ例トシテ示シタル法律ヨリ外ノ科目ハ固有法ト自然法ト對立シ  
 テ異リタル規則ヲ存スルニアラスシテ專ラ自然法ノ管轄スル所タリ

自然法ノ  
契約ヲ固  
有法ノ認  
探スル程  
度

即賣買賃貸會社等ノ如キ契約ハ之ヲ承諾契約ト云ヒ使用賃借消費  
 物貸借契約等ハ之ヲ物件契約（リース）ト云ヒ何レモ自然法ノ  
 規則ニ從フモノナリ  
 物權ヲ獲ル方法ハ第二卷ニ於テ之ヲ説明ス  
 人權ニ關スル自然法ハ固有法ノ之ヲ認探シタル程度ノ深淺ニ由リテ  
 左ノ二種ニ區別ス

第一 自然法ノ或部分ハ固有法上ニ於テモ出訴權ノ原由トナルモノ  
 ト認メタリ即(一)前ニ記載シタル無式契約(二)私犯ヨリ生スル賠償ノ義  
 務(三)紛失シタル物品ヲ他人理由ナクシテ拾取リタルトキ遺失者之ヲ  
 恢復シ得ル准契約上ノ權利等ハ皆此部類ニ屬ス此種ノ權利ハ其確固  
 タルコト古來固有法上ノ權利ト毫モ異ナルコトナシ

第二 自然法上ノ權利ニシテ前記ノモノ、外ハ直接ニ出訴ノ原由ト

羅馬法

五十三

Exception

自然法ト

普通法ト

ナ別視ス

ル説

スルコトヲ許サ、サレトモ幾分カ固有法之ヲ認探シ間接ニ之ヲ執行シタリ其一ニノ場合ヲ示サンニ(一)自然上ノ義務ハ直ニ出訴權ノ原由トナラスト雖衡平法上ノ<sup>ル・エキレプレヨン</sup>抵拒ノ原由トナルモノナリ例ハ單ニ自然上ノ負債アルモノ之ヲ償却シタルトキハ債主ハ之ヲ握持スルコトヲ得故ニ負債者其後ニ至リ法律上ニ於テ償却ノ義務ナク錯誤ニ由リテ支拂ヒタルコトチ主張シ其金員ヲ取戻サント出訴スルトキ債主ハ負債主ニ自然上ノ義務アリト抗辯シ又ハ義務相殺ヲ主張シテ取戻ノ訴ヲ却グルヲ得ヘシ又(二)自然上ノ義務ハ付從義務ノ原由タルコトヲ得即保證契約書入質等ノ如キハ自然上ノ義務ニ就キテ之ヲ爲シタルトキト雖法律上認メテ有効ナルモノトス右等ノ義務ハ直接ニ出訴ノ原由トナラサルヲ以テ之ヲ不完全ナル義務ト稱スルトハ雖間接ナカラモ羅馬ノ裁判所ニ由リテ之ヲ執行スル以上ハ矢張羅馬ノ人定法ノ一部

近世學者  
ノ説

分ヲ爲スモノト云ハサル可ラス  
羅馬學者ノ中ニハ自然法ト普同法トヲ區別スルモノアリ即アルピア  
ンハ自然法ヲ解シテ夫妻ノ關係親子ノ關係杯ノ如ク政治社會ノ未起  
ラサル以前ニ存スルモノニシテ之レ無クンハ人種ノ生殖得テ期ス可  
ラサル人種ノ關係ヲ支配スル法律ナリト解シ普同法ハ既ニ政治社會  
ノ存在スルニアラサレハ決シテ生シ得ヘカラサル人類ノ關係ヲ支配  
スル法律ナリト云ヘリ  
近世ノ學者ノ普同法ヲ解スルノ説ヲ聞クニ普同法トハ各國人定法ヲ  
比較シ一般ニ普通ナル法理若クハ全世界中ノ大部分ノ國民ノ採用ス  
ル所ノ自然ノ正理上ノ原則ナリト云ヒ自然法トハ哲學上ノ理想即道  
徳上ノ法律若クハ神法ニシテ實際立法ヲ以テ制定施行スルト否トニ  
係ハラス何國ト雖道徳上應サニ採用セサル可ラサル所ノ正理ヲ指示



Personae  
Res  
Actiones

別 法律ノ類

スルモノナリト云ヘリ然レトモガイアスハ此敎課書ニ記載スル所ニ依レハ自然法ト普通法トハ全ク同一意味ノ語トシ交互使用シタリ

法律ノ類別

ガイアス敎課書ノ第一卷第八條ニ曰吾人ヲ支配スル法律ノ全部ハ人物、又ハ訴訟ニ關スルモノナリ

法律ノ區別ハ何ニ由リテ之ヲ定ムルヤ立法官カ自ラ分別スル所ノ法律ノ小部類ハ如何ガイアスハ法律ノ全体ヲ分チテ人法、物法、訴訟法ト爲シタルハ果シテ何ノ主意ニ出テタルモノナラン乎請フ之ヲ討究セ

先第一ニ訴訟法ヨリ論センニモト此區別ヲ創定シタルモノ、意ハ訴訟手續ノ法律ヲシテ權利ヲ規定スル法律ニ對立セシムルニアリシナラン即ベンサムノ語ヲ用フレハ助法ノ成典ト主法ノ成典ト相對立セ

訴訟法ノ

性質

\*Sanctioning right  
\*Primary right

<sup>n</sup>Formal  
<sup>z</sup>Material

人法ト物

法トナ分

ツ原理

オースチ

ンノ説

シムルニアルナラン然ルニガイアスノ教課書ニ於テハ此區別ヲ嚴重  
 ニ守リタルニアラスシテ其訴訟法ノ部ニ於テ救<sup>よ</sup>正<sup>サシクシヨシニシテ</sup>權<sup>ハ、ライイト</sup>即<sup>テ、プライマリ、ライイト</sup>主性ノ權  
 ニ對スル權利ヲ論セリ蓋訴訟法ハ二様ノ性質ヲ有スルモノナリ第一  
 ハ形式<sup>レ、フチアル</sup>ノ性質純粹ニ法式ニ關係スルモノニシテ救正權ヲ執行スル規  
 律方法ヲ定ムルナリ第二ハ實體<sup>マテリアル</sup>ノ性質ヲ備ヘ幾分カ訴訟人ノ主性ノ  
 權利ヲ變更スルノ結果アルモノナリ今本書ハ訴訟法ヲ論スル部ニ於  
 テモ亦幾分カ法式ニ關スルコトヲ論スト雖多クハ法律ノ實體ニ關ス  
 ルコトヲ記載セリ

次ニ人法ト物法トノ區別ヲ爲ス原理ヲ探究スルニ之ヲ瞭知スルコト  
 甚難シ何トナレハ此二ツノ成典ハ共ニ同シク人ノ權利義務ヲ規定ス  
 ルモノナレハナリオースチン氏ノ如キハ此二者ノ區別アル理由ハ物  
 ノ法ニハ一般ノ人ニ關スル部類ノ法律ヲ論シ人ノ法ハ格段ノ人ニ關

Law of Status  
Equal  
Unequal

眞理  
ノ區別ノ  
人法物法

シ即例外ノ法ヲ論スルモノトシ尙之ヲ詳言スレハ此二者ハ深キ差異  
アルニアラス只格段ニシテ例外ノ法律ヲ一般普通ノ法律ト區別スル  
ハ實際上便利ナルカユヘノミト云ヘリ然レトモ此説ニテハ未以テ二  
者ノ區別ヲ了解スルニ足ラサルナリ

蓋人ノ法ハ之ヲ身分フロトナフ、ステータスノ法ト稱スヘク人ヲ區別シテ奴隸及自由人國士

及外國人家長及家族ニ區別セリ物ノ法ハ人チ一ノ契約者トシ又ハ一

ノ所有者トシテ論スルモノナリ之ヲ言換ユレハ人ノ法ニ於テハ其權ハインテグワル

利ノ不平等ハインテグワルナル點ニ根據シテ立論シ物ノ法ニ於テハ人ノ權利ノ平等

ナル點ヨリシテ論究スルナリ左レハ人ノ法ハ不平等ノ關係ノ法律ト

シ物ノ法ハ平等ノ關係ノ法律ト定解スルコトヲ得ヘシ

右ニ論究シタル所ヨリ考フルトキハ不平等ノ關係ノ法律及平等ノ關

係ノ法律ハ一般ノ成典ニ於ケル根本ノ區別ナリト云フコトヲ得ヘシ

一人ト一  
人トノ關  
係ニハ平  
等ヲ尊フ  
故ニ私法  
ニ身分法  
アルハ理  
ニ反ス  
人定法ニ  
不平等必  
要ノ理由

何トナレハ平等及不平等ナル事柄ハ法律ノ思想ニ於テ最必要ナル所  
ノモノナレハナリトポースト氏ハ云ヘリ

一個人ト一個人トノ關係ニ就キテハ人定法モ道德法ト同ク平等ト云  
フ事ヲ以テ正理ト云フコト、同一視セリ即一個人ト一個人トノ間ニ  
ハ常ニ平等ノ關係ノ存スルコトヲ要シ不平等ノ關係アルハ實ニ正理  
ニ反シタルコトナリ然レトモ人定法ニ於テハ不平等ト云ヘルコトモ  
亦決ノ捨ツ可ラサル必要物ナリトス何トナレハ已ニ論シタル如ク人  
定法ニ於テハ主權者即人民方服從ヲ呈スル所ノ優者アラサルトキハ  
決シテ人定法上ノ權利義務ハ生セサレハナリ即人定法ハ必スヤ一方  
ニ於テハ劣者アリ一方ニ於テハ無敵ノ優者アルコトヲ認ムルモノナ  
リ然ルニ人定法上ノ權利義務ト云フトキハ一ハ人民ト人民トノ關係  
ヲ意味シ又一ハ主權者ト人民トノ關係ヲモ意味スルモノニシテ之ヲ

身分法ハ  
主ニ公法  
ニ存ス

言換フレハ平等ト平等トノ關係及不平等ト不平等トノ關係ヲ意味ス  
ルモノト知ル可シオースチン氏ハ人ノ法ノ大部分ハ政治即憲法ヨリ  
成立ツコトヲ論シタルトキ此點ヲ看過シタルハ遺憾ナリト云フヘシ  
而シテ公レバアリツクロー法ニ屬スル關係ヲ舉クレハ一方ニハ主權者アリテ他ノ一  
方ニハ主權ニ服從スル人民アリ又ハ政府ノ種類ニ由リテハ種々ノ下  
等ノ官位アリテ優者ト劣者即不平等ノ關係極メテ多シ左レハ公法ハ  
身分法ノ一種タルコト明カニシテ又論スルヲ待タス而シテ私法ニ於  
テモ身分法ノ存スルハ寧ロ公法ノ一部分カ私法ニ侵入シタルモノト  
云テ可ナリ野蠻又ハ未開ノ立法ニ於テハ往々私法ノ中ニ應サニ適當  
ニ公法ニ屬スヘキ所ノ身分法ヲ引用シテ私法ノ面目ヲ傷害シタルコ  
ト少カラス例ヘハ古キ羅馬ノ身分法ノ如キ一家ノ長ハ其妻子ニ對シ  
死生ノ權ヲ有シタルモ必竟適當ニ主權者ノ握有スヘキ所ノ權力ノ一

平等ハ不  
平等ヨリ  
生ス

文明社會  
ニハ人民  
平等ナリ

部分ヲ一家長ニ付與シタルモノナリ又奴隸ノ制度ノ如キモ一私人ニ  
 專制君主ノ地位ヲ有セシメタルモノナリ  
 政府又ハ人定法ハ強力ノモノ弱者ノ道德上ノ權利ヲ侵襲スルヨリ始  
 リタルモノナリ而シテ不平等ハ平等ヲ生シ來スタメニ極メテ必要ナ  
 ルコトハ哲理歴史家ノ能ク知ル所ニシテ往昔蠶食ヲ隣國ニ恣ニシタ  
 ル暴君ナトノ道德ノ上罪アルハ論ヲ待サレトモ夫レスラ後世ノ開明  
 ノ先驅トシテ避クヘカラサルモノナレハ哲理學者モ深ク此吞噬ノ爲  
 メニ弱國ヲ不幸ニ陷イル、ヲ咎メサルナリ左レハ人定法ノ根源ヲ釋  
 ヌルトキハ一般ニ臣民ト臣民トノ間ニ不平等ノ存スルコトヨリ生シ  
 タルモノニテ現ニ民法ノ箇條中ニ其不平等ノ痕蹟ヲ留ムルモノ也然  
 レトモ文明ノ進ムニ從ヒ此人民間ノ不平等ハ次第ニ其程度ヲ減少シ  
 遂ニ君主ト人民又ハ治者ト被治者トノ間ノ外ハ復不平等アルヲ見サ

身分ノ區別  
別民法ヨ  
リ除カル

Constitutional law

人ノ身分  
ヲ定ムル  
公法ハ統  
治者ニ對  
シテハ人  
定道徳法  
ナリ

ルニ至ルモノナリ現今ノ社會ハ既ニ大ニ此方向ニ進歩シ法律ノ前ニ  
 八人皆平等ナリト云ハル、程ニテ曾テ羅馬法ニ存シタル人ノ身分上  
 ノ區別ノ如キハ殆ント民法ヨリ洗滌セラレタル程ナリ見ヨ奴隸ハ既  
 ニ其跡ヲ絶テ親ノ權力夫ノ權力ハ適當ノ區域ニ減縮セラレ内外國人  
 ハ凡ソ平等ノ權ヲ得タリ將タ後見人ノ地位ニ至リテハ近世ノ法理ニ  
 於テハ(羅馬ノ後世ノ法ト同シク)一箇ノ公ケノ職務ヲ盡スモノト看做  
 サル、カ故ニ後見人幼者ノ關係ハ之ヲ公法ノ一部分ナリト爲シテ可  
 ナリ

前條ニ於テ公法又ハ憲法ノコトヲ論シタルカ是ハ純粹ノ人定法ノ性  
 質ヲ欠ク所ノモノタルコトヲ注意セサルヘカラス成程下等ノ官人ノ  
 權力ハ一ノ身分タルニ相違ナシ其權利義務ノ如何ハ統治者ニ訴ヘテ  
 之ヲ決スルモノナレハ即人定法ノ權利義務ト謂フヘシ然ルニ統治者

ノ權力ヲ制限スルコトハ人定法ノ區域外ニ出ツルモノニテ統治者ハ  
全ク人定法ヨリ獨立シ法律上ノ義務ヲ負ハサルモノナリ又統治者ハ  
人定法ニ依リ權利ヲ有スルモノニモアラス謂ハユル統治者ノ權力ハ  
其權利ナリト云フモノ卽是意ヲ明示スト云ヘシ勿論統治者ニテモ道  
徳上ノ法ヤ神ノ法杯ノ命令ヲ免ル、コトヲ得サレトモ此等ハ人定法ト  
異ナルコトハ既ニ諸君ノ知ル所ナリ左レハ憲法ハ之ヲ統治者ニ對シ  
テ執行スルニハ道德上ノ制裁ヲ以テスルノ外道ナキモノトス故ニ私  
法ニ屬スル所ノ人ノ法卽身分法及統治者ヨリ委託サレタル權力ヲ執  
行スル官人等ハ皆人定法ノ部ニ屬スルコト物ノ法ノ人定法ノ一部タ  
ルト異ナルコトナケレトモ統治者ニ至リテハ決シテ法律上ノ身分ヲ  
有セサルモノト知ルヘシ是ニ依リテ之ヲ觀レハ憲法ハ統治者ノ權力  
ヲ制限スル點ニ於テハ人定法ニアラスシテ一箇ノ輿論ノ法ニ過キス



Condition hominum 類身分ノ種  
Libertas  
Civitas  
Familia

Status

身分ノ種類

(コンジション、ホミナム)

即公法ハ統治者ニ關シテハ人定法ニアラスシテ道德上ノ格言ヲ集合シタルモノト云フヘキノミ  
憲法ヲ以テ身分法ナリト論スルハ羅馬法ニ由ルニアラスシテ法理家ノ言ヲ用ヒタルモノナリ羅馬法ニ於テハ「ステータス」ト云フ文字ハ私人ノ關係即其政治上又ハ民事上ノ權利ヲ指示スルモノニシテ執法者ノ政治上ノ權力ヲ云フモノニハアラス

人ノ法ニ規定スル所ノ身分ノ區別ハ左ノ三點ニ關スルモノトス(一)自由リベ  
由ルタス (二)國土權シビタス (三)家族是ナリファミリア  
第一自由ニ關シテハ人ハ自由人及奴隸ニ別タル又自由人ヲ別チテ生來ノ自由人ト復權ノ自由人トス左レハ自由ニ關シテハ生來自由人復權自由人及奴隸ノ三種ヲ論究スルヲ要ス

第一自由  
第二國士  
權

≒ Cives  
≒ Peregrini  
≒ Latini

第三家族

≒ Potestas  
≒ manus  
≒ Mancipium

第二國士權ニ關シテハ人ハ元ト國士エシニス及外國人チブレグリーニニ區別セリ國士ノ權ハ之ヲ政治上及民事上ノ二種ニ分ツ政治上ノ權トハ撰舉權立法權及任官權トス民事上ノ權ハ財產及婚姻ニ關スル權トス外國人ハ政治上ノ權ヲ有セス又固有法ノ規定セル所ノ財產上及婚姻上ノ權ヲ有セス以上二種類ノ外後ニハ第三種ヲ增加シ之ヲリラテニ一ト云ヒ國士ト外國人トノ中間ニ位スルモノニテ政治上ノ權ヲ有セス唯民事上ノ權ノ一部分即財產ニ關スル權ノミヲ有シ婚姻ニ關スル權ヲ有セス左レハ國士權ニ關シテモ國士一ラテニ一及外國人ノ三種アリトス

第三家族ニ關シテハ一家族ノ長ノ權ハ名目上又三種ニ分ツ即家長權ポテスタス夫權賣渡權ナリ尤家長權ハ之ヲボテスタス、ドミニカ奴隸ニ於ケル權及子孫ニ於ケル權ニ分チ子孫ニ於ケル權即父權ハ自ラ一種類ヲ爲スモノナレハ結極ツマリ家族ニ關シテハ四種類アルモノト云フヘシ夫權ハ妻チ子女ト同一ノ地位

わPaterfamilias  
かFiliusfamilias.  
よMancipium

ニ置クモノナリ家長ハ「マンシピアム」ノ權ニ依リ其子孫ヲ奴隸ニ賣ル  
ノ權利ヲ有ス而シテ「マンシピアム」ナル字ハ又一ノ家長ノ爲メニ他ノ  
家長ニ奴隸トシテ賣ラレタル所ノ家族ヲ意味スルモノナリ斯カル家  
族ハ買受人ニ對シテハ奴隸ニ比擬セラルレトモ世間ニ對シテハ自由  
人ニシテ又一個人ノ國士ナリ但其地位ノ續ク間ハ政治上ノ權ヲ停止セ  
ラル、カ如シ右ノ如ク奴隸ハ自由ノ部類ニテ論シ妻ノ身分ハ子孫ノ  
身分ト全ク同一ナレハ家族上ノ獨立又ハ從屬ノ地位ニ關シテモ自由  
及國士ニ關スルト同シク人ヲ三種類ニ區別スルコトヲ得ヘシ曰ク家  
長ファミリアス、カファミリアス、ファミリアス、エマンシピアム族、被賣家族、トス中ニ就キテ家長ノミ獨立ニシテ他ノ  
長ファミリアス、カファミリアス、ファミリアス、エマンシピアム族、被賣家族、トス中ニ就キテ家長ノミ獨立ニシテ他ノ  
二種ハ從屬ナリトスアリエナイ、ジュリス  
以上區別シタル九箇ノ種類ニ付キガイアスノ論シタル所ハ詳畧一様  
ナラス第一種ニ就キテハ重モニ自由人ヲ論シ第二種ニ就キテハ只間

家族法カ  
他ノ法ト  
異ナル點

接ニ國土ヲテニ一及外國人ノコトヲ論過セリ而シテ氏ノ教課書ノ第一卷ノ大部分ハ重モニ家族ノ關係ニ關セリ、近代ノ法律ニ於テハ身分ノ區別ハ殆ト消滅シタルヲ以テ夫妻ノ關係親子ノ關係後見人幼者ノ關係ノ如キ家族的關係ノ法律ノミニテ人ノ法ノ全部ヲ構成セリ以前ハ此ノ關係ハ只其一部分ヲ爲シタルニ過キサリシ今家族法ノ他ノ民事上ノ法ト大ニ其性質ヲ異ニスル點ヲ示サシニ財產及人權ノ關係ハ人造ニ出ルモノ多ク家族法ノ支配スル關係ハ天然ニ出テ且人種ノ生存ニ必要ナルモノトス左レハ家族ノ關係ノ重要ナルモノハ一般動物世界ニモ適用シ得ヘキモノニテ即アルピア  
ンガ特ニ自然法ト唱ヘタルモノナリ又次ニハ財產及人權ノ事柄ハ人定法ノ制作ニ出テ家族上ノ事柄ハ人定法ニ支配サル、ハ其一分部ニ止リ大部分ハ道德上ノ法律ノ規定スル所ノモノナリ純粹ナル家族法

復權ノ自由人

即財産及財産ニ關スル權利義務ヲ扣除シタル餘ノ法律ハ存外僅少ノ者ナリ然レトモ純粹ノ家族法ノ中へ家族ニ關スル財産及人權ニ關スル法律ヲ編入スルヲ適當トス故ニ主法ノ大區別ヲ舉クレハ純正及應用家族法、財産法、人權法トス右ノ外ニ財産法ヨリ分別シテ財産相續法ヲ論スルトキハ主法ノ區別ハ渾テ四種類トナルヘシ

主人ノ爲メニ銷刑烙刑ニ處セラレ又ハ拷問ヲ用ヒテ處斷セラレ其他猛獸ト鬪角スルコトヲ命セラレ公獄ニ下サレタル等ノ奴隸カ主人ヨリ解放ヲ受ケタルトキハ敵人ノ降服シタルモノト同様ノ身分ヲ得ルニ止マリ決シテ羅馬國土又ハ「ラチナイ」タル身分ヲ有スル能ハス右ニ記スル重刑ノ汚辱ヲ受ケタルコトナキ奴隸ノ解放ニ會フトキハ場合ニ依リ或ハ羅馬國土トナリ或ハ「ラチナイ」トナル

- (一) Vindicta
- (二) Censu
- (三) Testamento

ト解放ハ公事タルコ

左ノ三個ノ條件ヲ具備スル奴隸ハ羅馬國土ト爲ルコトヲ得

一 三十歳以上タルコト

二 解放者ノ固有法上ノ所有物タリシコト

三 左ニ記載スル民事上及條例上ノ解放手續ニ依リ自由ヲ得タル

コト

一 假定<sup>(一)</sup>ノ訴訟ニ於テ欠席スルコト

二 戸籍<sup>(二)</sup>調査ノ帳簿ニ記入スルコト

三 遺言<sup>(三)</sup>證書ヲ以テスルコト

以上三個ノ一ヲ欠ク奴隸ハ單ニ「ラチナイ」ノ資格ヲ得ルニ止マル

抑奴隸ヲ解放スルコトハ單ニ私シノ行ヒニ止マラス又公ケノ行ヒタ

ルモノトス蓋シ奴隸ヲ所有主ノ所有權ノ束縛ヨリ解放スルノ外其奴

隸ヲシテ羅馬國土タル身分ヲ得セシムルモノナルヲ以テ解放ノ事タ

遺言ノ解放

ル唯ニ其所有主ノ專意ヲ以テ決行スヘキ私事ト爲スヘカラス故ニ前  
ニ記載シタル三箇ノ解放手續卽チ遺言記入訴訟ヲ行フニ當リテハ皆  
國家ノ干涉ヲ受クルモノトス  
遺言ヲ以テ解放ヲ爲スニハ元ト國會ニ於テ其手續ヲ執行スルヲ要シ  
タルモノニシテ國會ハ其解放ニ立法上ノ裁可ヲ與ヘ以テ一箇ノ私シ  
ノ法律ト爲サシメタルモノナリ後年ニ及ヒ遺言解放ノ新法ヲ制定シ  
タルニ當リテハ遺言者ハ全ク解放ノ權ヲ掌握シタルカ如シト雖猶ホ  
解放ノ場所ニ立合フ證據人ハ卽チ儀式上ニ於テ國民ヲ代表シタルモ  
ノト云フヘシ  
遺言ヲ以テ自由ヲ與フルニハ直接ト間接トノ方法アリ直接ノ方法ト  
ハ其被放奴隸ヲ遺言者ノ復權人ト爲ス場合ヲ云ヒ間接ノ方法トハ相  
續人ニ奴隸ヲ解放スルコトヲ請托スルモノニシテ解放ノ上ハ此奴隸

戸籍簿ニ  
記入ノコ  
ト

ハ右相續人ノ復權人ト爲ル場合ヲ云フ  
次ニ戸籍簿ニ記入スルコトニ依リテ奴隸ヲ解放スルトキハ調査官ハ  
卽チ國家ヲ代表スルモノトス羅馬法學者アルピアンノ言ニ依ルニ夙  
ニ廢絶ニ歸シタルモノニシテ耶蘇紀元以來此方法ヲ用ヒタルモノハ  
僅カニ三回ニ過キス紀元後七十四年ニ於テシタルモノヲ最終ノ者ト  
ス尤其以來二百四十九年テシヤス帝ノ治世ニ尙ホ一回ノ調査アリシ  
ト謂フ  
記入ニ依リ奴隸ヲ解放スルノ方法ノ廢絶ニ皈スルヤ一ノ新法ヲ創定  
セリ之ヲ宗教上ノ解法ト稱シ耶蘇宗教ノ進步ノ著シキ効果ナリ紀元  
後三百十六年コンスタンティン帝ノ勅令ハコノ宗教上ノ解放ノ方法  
ヲ認許シ且ツ此方法ハ已ニ久シク實行シタルモノナリト云ヘリ其手  
續ハ宗教議會參集セシ僧正ノ面前ニ於テ爲スモノニシテ一ノ記錄ヲ



備フルヲ要シタシ此方法ハ後世封建時代ニ及フマテ引續キ實行シタルモノナリキユージヤシヤス曰昔シチーリヤン府ノ寺院ノ門扉ニ其文字ヲ記載シタルヲ見タリ「ホーリクロス」神聖ナル十字架ヲ加護及ヒ「ホーリクロス」ノ臣民ナル僧正ジヨーンスアルバータスノ參讚ニ依リ此神聖ナル寺院ノ面前ニ於テレムバータスヲ解放者スル者ナリ」假設ノ訴訟ニ依リテ奴隸ヲ解放スルトキハ國家ヲ代表スルモノハ執レイトル法官ナリ凡ソ對世權ノ訴訟ニ於テハ双方ノ爭訟者一ノ棍棒ヲ持シ其權利ヲ主張スルニ當リ其棍棒ヲ以テ爭訟ノ目的物品ニ觸ルヲ法トス盡シ棍棒ハ槍鋒ニ擬スルモノニシテ其意タル所有權ヲ有セリトノ意ヲ寓セシメタルモノナリ今自由ニ關スル訴訟モ亦一箇ノ對世權ニ關スル訴訟ナルヲ以テ奴隸解放ノ訴訟ニ於テモ亦此奇怪ナル手續ヲ踐ミシモノタリ而シテ此方法ヲ以テ奴隸ヲ解放スルニハ或ハ實際ノ

訴訟ニ於ケルト同様ノ手續キテ踐ムコトアリト雖又時トシテ單ニ其式ノミニ止メ執法官ノ面前ニ於テ正肅ニ奴隸ニ自由ヲ許與スルコトアリ此後者ノ方法ハ之ヲ「イン、ジユル、セツシヨ」ト稱シ權利ヲ返納スル所ノ讓渡ノ一種ナリトス扱此假設ノ訴訟ノ詳細ヲ述ヘンニ奴隸ハ假設ノ爭訟ノ目的物タルヲ以テ此訴訟ノ對手人タルヲ得ス故ニ辯護人ニ由リテ其權利ヲ主張セシムルモノトス辯護人ハ其一方ノ手ヲ以テ奴隸ヲ握抱シ且ツ棍棒ヲ以テ之ニ觸レ其自由ノ身タルコトヲ主張ス於是カ奴隸ノ所有主ハ自ラ之ヲ握抱シタル手ヲ放テ默許又ハ明言ノ陳述ヲ以テ請求者ノ正理ナルコトヲ告白ス於是カ執法官ハ奴隸ハ自由ナルコトヲ宣告スルモノナリ抑此手續タル執法官ノ常職ニアラスシテ隨意ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ必シモ其役所ノ高壇ニ坐スルヲ要セス平地ニ在リテ之ヲ取捌クモ可ナリ故ニ此訴訟ニ就テハ執法

三十歳以下ノ奴隸ハ解放シタル國士タルスルニ當ル由アル格別トキハ格

官ノ面前ハ即チ法庭ナルヲ以テ往々遠馬ヲ爲シ浴場又ハ劇場ニ赴クノ途上ニ要セラレ解放ノ式ヲ行フコトアリ  
レツキス、エイリヤ、センシヤ、ト稱スル法律ハ奴隸解放ニ關シ其年齢ノ制限ヲ定メ三十歳以下ノ奴隸ハ解放ニ由リ羅馬國士タル身分ヲ享ケルヲ得ス但シ假設ノ訴訟ニ依リ解放ヲ爲シタル場合ニ於テハ執法官ノ補助役ノ前ニ於テ解放ヲ要スル相當ノ理由ヲ先ツ證明シタルニ於テハ年齢ノ如何ニ關セス國士タル身分ヲ得ルモノトセリ而シテ解放ノ相當ノ理由トハ例ヘハ其奴隸カ解放人ノ私生ノ子タルコト又ハ其奴隸ハ解放人ノ父ノ私生ノ男女タルコト又ハ其奴隸ハ解放人ノ養ヒ子タルコト又ハ解放人ノ子ノ管護人タルコト又ハ解放人カ其奴隸ヲ商業ノ代理人ニ使用スルコト又ハ解放人カ其奴隸ヲ自己ノ子ト爲サントスル如キヲ云フ

執法官ノ補助役ノ會同ハ羅馬ニ於テハ五名ノ元老議官並ニ能婚年齡以上ノ羅馬士族五名ヲ以テ組織ス地方ニ於テハ羅馬國士タル外國裁判役二十名ヨリ成立チ其裁判開廷日ノ最終ノ日ニ於テ此解放事務ヲ取扱フモノトス羅馬ニ於テハ會同ハ該事務取扱ノ爲メニ特ニ定メタル日ニ於テ開廷ス

三十歳以下ノ奴隸ヲ解放スルニ書面ヲ以テシ又ハ證人ノ面前ニ於テシ其他響應ノ場ニ於テスルトキハ其奴隸ハ唯ラチナイ、ジュニアナイト云フ資格ヲ得國士ト爲ルコトヲ得ス此奴隸ハ羅馬市中並ニ羅馬ヨリ百里以内ニ居住スルコトヲ禁シ若シ此禁ヲ犯ストキハ其身體並ニ財産ヲ賣却シ奴隸ハ羅馬ヨリ百里外ニ於テ苦役ニ使用セラレ且ツ後來解放セラレ、コトヲ得ス是レ、レツキス、エーレア、センシア法ノ定ムル所ナリ〔同法ハオーガスタス帝ノ世ニ出ツ耶蘇紀元後第四年〕

然ルニ耶蘇紀元後第十九年タイベリヤス王ノ代「レツキスジユ」ニヤ、  
 ノ「バナ」ト稱スル法律ヲ出シ大ニ前法ノ苛酷ナル所ヲ寛裕ニセリ  
 卽チ解放ヲ受ケ復權シタル奴隸ハ所謂「ラテン」地方ノ羅馬殖民地ノ國  
 士ト同一視セラレ羅馬民權ノ一班ヲ有スルコトヲ允サル羅馬民權ヲ  
 分チテ二トシ一ヲ婚姻權一ヲ商賣權ト云フ今復權ノ自由人ハ婚姻權  
 ナ有セサレトモ商賣權ヲ得ルト定メリ故ニ復權人ハ婚姻權ナキニ由  
 リ羅馬ノ國法ノ儀式ヲ以テ婚姻ヲ取結フコトヲ得サレトモ自然上ノ  
 婚姻ヲ爲スノ權アルハ勿論ナリ故ニ羅馬國法ヨリ生スル家族ノ關係  
 卽チ家長ノ權長子相續權等ノ諸權ハ之ヲ有セリ然レトモ自然上ヨリ  
 生スル親族ノ關係ハ固ヨリ之ヲ有ス  
 「ラテン」人ト同視セラレタル復權人ハ前陳ノ如ク商賣權ヲ有スルカユ  
 ハニ國法上ノ所有權ヲ保チ又國法上ニテ物品ヲ獲得シ其他契約ヲ結

ヒ訴訟ヲ起ス等ノ權アルハ羅馬國士ニ異ナルコトナシ然レトモ遺言  
ノ相續ニ付テハ該復權人ノ權利ハ最モ制限セラレタルモノナリ故ニ  
相續人トシテモ又ハ遺囑受贈人トシテモ財產ヲ讓受クルコトヲ得ス  
又自ラ遺言ヲ以テ自己ノ財產ヲ讓渡スコトモ得ス左レハ其死後ハ總  
テ其財產ハ其主人ノ所有ニ皈スルコト宛モ奴隸ノ有セル有限財パキユリアムノ場  
合ノ如シシヤスチニアン帝ハ此事ニ付キ左ノ如キ言ヲ爲セリ曰ク復  
權人ノ其生存中ハ自由ナレトモ一タヒ其性命ヲ失フヤ頃刻ニシテ再  
ヒ奴隸ノ地位ニ陷ルモノナリト  
如斯復權人ハ其一身ニ關シテハ甚<sup>ク</sup>危殆ノモノナレトモ其子孫ニ至リ  
テハ斯クノ如ク又危殆ナラス何トナレハ此不便ハ獨リ復權セラレタ  
ル人自身ニ關スルモノニシテ其子孫ニ及ハサレハナリ左レハラテナ  
イジユニアナスノ子ハ父ノ死シタル爲メニ悉ク其財產ヲ主人ニ奪ヒ

取ラレ赤貧ニ陥ルト雖モ一旦其赤貧中ヨリ自ラ勉強シテ蓄積ヲ爲ス  
 トキ其財産ハ皆自己ニ屬シ毫モ亡父ノ主人ノ干涉ヲ受クルモノニア  
 ラスシテ一個ノ復權人ノ資格ヲ以テ世ニ立ツモノナリ  
 抑ラテン人ト稱スル一個ノ資格ハ早ク廢止ニ歸シガイアスノ時代ヲ  
 距ル遙カ以前ヨリシテ法律上ノ文字タルニ止リ實際サル人種ノ存在  
 セシニアラス蓋シ羅馬ニ於テ社會戰爭ト稱スル争鬪ノ後間モナク伊  
 太利全國ハ一体ニ羅馬國士タル資格ヲ授ケラレタリ左レハラテン人  
 タル資格ハ後世ニ及ヒテハ只惠與トシテ地方ノ都府里郷ニ之ヲ附與  
 シタルモノニシテ毫モラテン人種ニ關係アルニアラス例ヘハブアス  
 パシアンガラテン人タル資格ヲイスパニアノ全國ニ與ヘタル如キコ  
 レナリ  
 「ラテナイ」ノ資格ヲ得タル復權人カ羅馬國士タル資格ヲ得ル方法

「ラテン」人ハ羅馬國人ノ有スル特權ヲ恢復スルニ其方法數多アリ第一「レツクス、エーリヤ、センシア」法ニ於テ已ニ其方法ヲ記載セリ即チ左ノ如シ

三十歳以下ノ奴隸ニシテ解放ニ由リ「ラテン」人ト爲リタルモノ羅馬ノ國士タル婦女ヲ妻トシ又「ラテン」殖民人若クハ自己ト同資格ノ復權婦人ヲ妻ト爲シ其際能婚年齢以上ノ羅馬國士タル七名ヨリ少カラサル立合人ニ依リテ承認セラレタルモノ子ヲ設ケ其子一歳ニ達シタル時羅馬ニ於テ「ブレートル」ニ申出テ地方ニ於テハ奉行ニ申出テ此婚姻ノ際本條令ノ規定ヲ遵奉シ其設ケタル一歳ニ達シタルコトヲ證シ其證明ヲ受ケタル執法官該陳述ノ信實ナルコトヲ宣告シタルトキハ此「ラテン」人並ニ其妻及其子ハ本條令ニ由リ羅馬國士タル身分ヲ得タルモノトス



前文ニ於テ復權人ノ子モ本條例ニ依リ云々ト述ヘタルカ「ラテン」人ノ妻羅馬國士タル身分アルモノナルトキハ該子ハ生來ノ羅馬國士タル資格ヲ得ルモノナルコトヲ注意スヘシ

若シ「ラテン」人此條令ニ依リ證明ヲ爲ス前死去シタルトキハ子ノ滿一歲ニ達シタルトキ其母之ヲ證明スルコトヲ得然ルトキハ母ト其子ハ羅馬國士ノ身分ヲ得ヘシ

第二此條例ヲ遵奉セント欲シ「ラテン」人カ或婦人ヲ「ラテン」人ナリト信シテ婚姻シタルニ實ハ外國人タリシ場合又ハ「ラテン」婦人カ右ト同様ノ錯誤アリシ場合又ハ羅馬國士カ自ラ「ラテン」人ナリト誤信シ「ラテン」婦人ニ婚姻シタル場合又ハ羅馬國士カ或婦人ヲ同ク羅馬國士ナリト信シテ婚姻シ實ハ「ラテン」婦人タリシ場合此等ノ場合ニ於テ其錯誤ヲ證明スルトキハ「ラテン」人又ハ「ラテン」婦人及其子ハ羅馬人ノ特權ヲ得

(一)Magistracy  
(二)Remanumission

ヘシ

第三ヲテ<sup>(一)</sup>殖民地ニ於テ或官職ヲ奉スルヲテ<sup>(二)</sup>人ハ羅馬國士タル資

格ヲ得

第四<sup>(一)</sup>再度ノ解放<sup>(二)</sup>即チ私シノ性質ノ解放式ニ依リ<sup>(一)</sup>ラテ<sup>(二)</sup>人ノ資格ヲ得  
タル後更ニ公ケノ性質ノ法式ニ依リ解放ヲ爲ストキハ其<sup>(一)</sup>ラテ<sup>(二)</sup>人ハ  
羅馬國士トナル<sup>(一)</sup>公ケノ解放式トハ假設訴訟、戶籍簿登記又ハ遺囑ヲ云  
フ

第五六年間羅馬軍隊ニ服役スルコト元老院ハ法令ヲ發シテ三年ノ服  
役ニテ國士權ヲ得ルニ十分ナリト定メタリ爰ニ讀者參照ノ爲メ英吉  
利法律ヲ摘示スレハヂヨージ帝第二世第十三年ノ布告第三章ノ法文  
ニ依ルニ外國人タル海員ニシテ戰時ニ際シ二年間英國船ニ乗組タル  
者并ニ外國人ノプロテスタント<sup>(一)</sup>教ヲ信奉スル者ニシテ亞米利加大陸

ノ英國殖民地ニ於テ陸軍々人タル資格ニテ二年間服務シタル者ハ英吉利國民トナル

第六羅馬ニ於テ家屋ヲ建設スルコト

第七一萬モザアイノ容積アル船ヲ構造スルコト及六年間穀物ヲ羅馬ニ輸入スルコト之ニ類シタル英吉利ノ法律ハ外國人タル「プロテスタント」信者ニシテ三年間鯨獵ニ傭役セラレタル者ハ公職ヲ奉スルノ資格ヲ得ル能ハサル一點ヲ除キ英吉利國民トナル是レナリ

第八羅馬ノ市民ニ給與スル爲メ車場及燒屋ヲ構造スルコト

第九三人ノ兒供ヲ舉グルコト

第十勅許

奴隸ノ所有主ハ必スシモ悉ク解放ノ權アルニアラス

奴隸ヲ所有スル主人ハ必ス悉ク解放ヲ爲スノ權利アリト思惟スヘカ

ラス所有主其債主ヲ欺カン爲メ解放ヲ試ムルコトハ前顯ノ「レツキス  
エイリア、センシヤ」法ニ於テ之ヲ禁シタリ  
又同法ニ依ルニ二十歳以下ノ所有主其奴隸ヲ解放スルニハ唯裁判補  
助役ノ前ニテ相當ノ理由ヲ陳述シタル上假設ノ訴訟ニ據リテノミ解  
放ヲ行フコトヲ得而シテ相當ノ理由トハ解放セントスル所ノ奴隸カ  
所有主ノ父、母、同育兄弟タルコト及ヒ前述ノ三十歳以下ノ奴隸ヲ解放  
スルトキノ理由アルコト是レナリ  
以上ノ法律ニ據ルニ十四歳以上ノ人ハ遺言ヲ爲シ以テ相續人ヲ定メ  
遺物ヲ贈遺スルノ權アリト雖二十歳ニ達スルマテハ遺言ヲ以テ奴隸  
ニ自由ヲ與フルコトヲ得サルナリ  
奴隸ニ國士タル權ヲ賦與スルニ非スシテ單ニ「人タル」資格ヲ與  
ヘント欲スル時ト雖二十歳以下ノ所有主ハ證人ノ前ニ於テ相當ノ理

(一) Aliani Juris

(二) Sui Juris

由アルコトヲ裁判助役ニ示サ、ルヘカラス

前數條ニ記載スル者ハガイアスノ書ニ言フ所ナルカヂアスチニア  
皇帝其新法ヲ以テ有効ノ遺言ヲ爲シ得ル者即チ十四歲以上ノ者ハ遺  
言ニ依リ奴隸ニ自由ヲ與フルノ權ヲ許與シタリ又同帝ノ法令ニ言フ  
所ニ依レハ復權人ノ最下等ノ種類即チ「デヂチシア、リベルタス」ハ久シ  
ク廢絶ニ歸シ第二等ノ復權人即チ「ラチナ、リベルタス」ハ法律ヲ以テ之  
ヲ廢シ「ラテン」人ヲ作ル方法ヲ以テ直チニ羅馬國士ヲ作ルノ方法トナ  
シタルナリ

「レツキズ、エイリア、センシア」法ノ後四年即チ耶蘇紀元後第八年ニ「レツ  
キズ、フユリア、カニニア」法ヲ發シ數箇ノ奴隸ヲ有スル所有主カ解放シ  
得ル奴隸ノ數ヲ制限シタルカヂアスチニアアン皇帝ハ之ヲ廢止シタリ

人ノ第二ノ區別

(一) アリアニ、ジュリス (二) シュアイ、ジュリス  
從屬人及目主人

羅馬法/渡邊安積(講義)；山口正毅(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

85 ページ以降の講義録 (14 号あるいは 20 号) は非所蔵